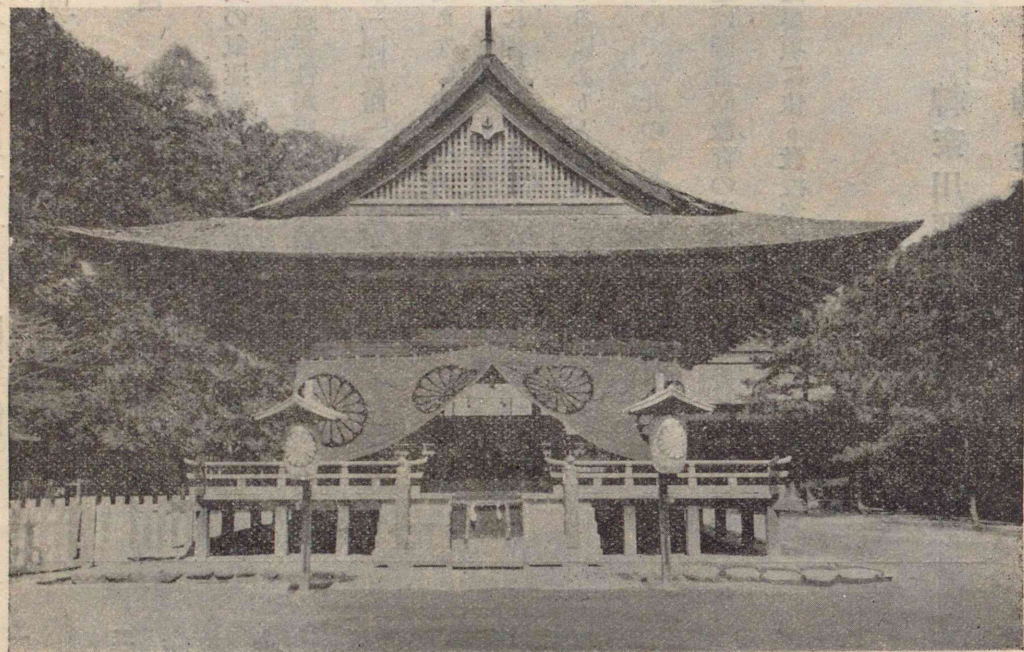


# 武相教育

昭和八年七月二十七日第三種郵便物認可  
昭和十二年三月二十日發行(毎月十五日發行)

第八十四號



官幣中社鎌倉宮

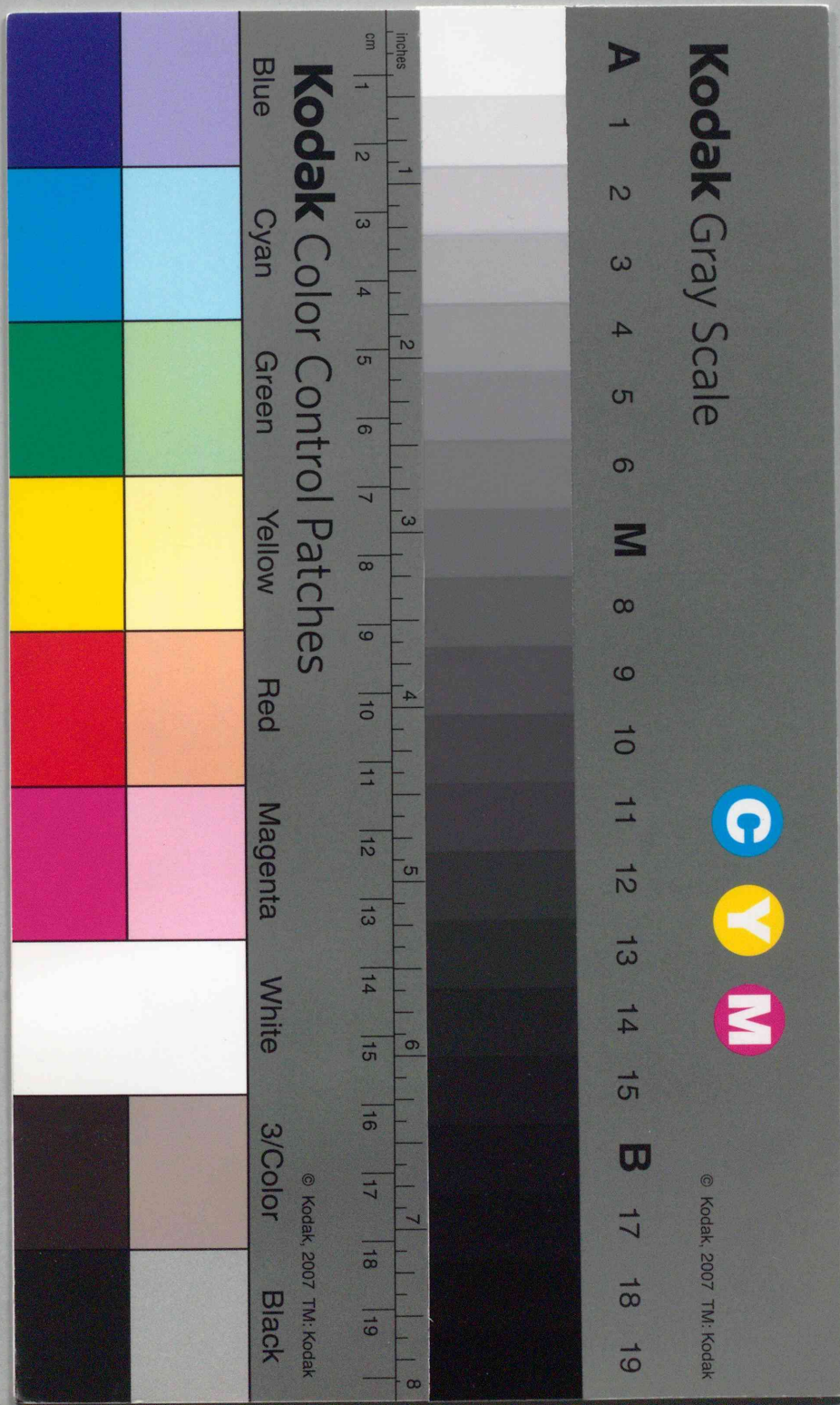
## 目次

神奈川縣下に於ける明治天皇聖蹟を調査して……	山田豊次郎……三
聖蹟調査委員 磯貝 正……三	
教育知事 中野健明氏の業績を偲びて……	
惟神寮の鎮座祭に就いて……神奈川縣女子師範學校……六	
融和教育教授案懸賞募集當選發表……	一
嗚乎感激深し茨城縣日高村の全村教育……	
鎌倉・瀬谷校……岩本正義……一三	
日高村並鹿島臺村視察記……	
津久井・小淵校 濱野壽雄……一五	
生徒・児童作品(俳句、和歌、童謡)……	一八
チエツコスロバキヤのソコール……	
横濱・浦島校 平戸喜太郎……二四	
つゞり方指導の新機構(つゞき)……	
師範訓導 小島忠治……二九	
回顧五十年(其の九)……伊東覺念……三四	
教育瑣談(其の二)……高橋新太郎……三四	
各地通信……	三八
五十周年記念寄附金(第四回)……	四五
教育塔建設資金寄附金(第四回)……	四五
教員共済會だより……	四六
日誌 杖萃……	四七
編輯後記……	四八

神奈川縣教育會

紀元二五九七年三月

昭和二十二年三月二十日發行





### 小學國語讀本卷九第十七課「圖書館」 教授案募集要項

#### 趣 旨

輓近圖書館事業振興の氣運著しく、各方面に於て社會教育施設としての圖書館教育の重要性が唱へられ新年度よりは愈々小學國語讀本卷九第十七課に「圖書館」の一課が加へられるに到りましたことは誠に慶賀に堪えない次第であります。

これは、圖書館を眞に理解し利用せしむるには、先づ小學兒童より、之を教育訓練するにありとする廣い教育的見地より爲されたいものと考へられますので、此の機會に於て之が教材の取扱に就いて充分なる研究を遂げ圖書館教育の徹底を期するため、茲に普く教育關係者より左記要項に依り教授案を募集致す次第であります。

神奈川縣圖書館協會

神奈川縣教育會

#### 一、教 材 記

小學國語讀本卷九第十七課「圖書館」

#### 二、應募上の注意

- 1 圖書館に對する理解を深め、讀書指導の徹底に資する様留意すること。
- 2 都市或は農村各々その土地の事情に適する様實際的に取扱ふこと。
- 3 應募原稿の枚数は制限せず、但し原稿は謄寫印刷とし同文のもの十部送付のこと。
- 4 住所氏名は原稿に記入せず、別紙に署名添付のこと。

#### 三、審 査 員

學務部長、男女兩師範學校長、社會教育課長、學務課長、縣視學、圖書館協會理事

#### 四、賞 金

一等一名 二〇圓 二等一名 一〇圓 三等三名 一圓 五圓宛

#### 五、締 切

昭和十二年五月十日限

#### 六、發 表

昭和十二年六月號「神奈川縣圖書館月報」、「武相教育誌」上に於て發表す。

#### 七、原 稿 届 先

神奈川縣社會教育課内神奈川縣圖書館協會宛

### 郷 土 の 誇

#### 五 業 港 灣 都 市 と 川 崎 市



躍 進 川 崎 市 鳥 瞰 圖

神奈川縣教育  
五十年回顧展  
覽會へ郷土の  
誇として  
川崎市教育會  
より出品せる  
もの



神奈川縣下に於ける

明治天皇聖蹟を調査して

聖蹟調査委員 磯 貝 正

愛甲の聖蹟調査を了へて津久井郡與瀬町小原町組合立桂北尋常高等小學校に着いたのは午後二時二十分であつた。

未だ中食を喫してゐないので井の用意を依頼して小原町底澤字板橋の御小休所に行き。最近賣出し中の美女谷温泉の入口を入つて踏切の右手線路の敷地中となつて居る處である。丁度小佛トンネルの西口より約百米西寄りの地點である。昔はこゝが甲州街道に當つて居たので、小林庄右衛門氏が茶屋を經營して居つた。前に突兀たる小佛の偉容を仰ぎ、脚下に底澤川の清流を下瞰し得て眺望頗る佳く、峠上り下りの旅人は必ず腰を下したものであつた。明治十三年長くも 明治天皇山梨三重京都御巡幸に際して、板輿にて小佛峠を越へさせられ、六月十七日當所にて御小休遊ばされたのである。御膳水として御使用相成つた井戸は今も「たまりや」といふ茶屋の前の桑畑中に滾々として盡きぬ清水を湛へて、近隣の飲用に供せられて居る。鐵道敷地に買収せられてしまつた小林家は現在谷の奥に移り農を營んで居られる。御小休當時の遺品として御机並に、御下賜金拾圓の包紙を所持して居り、御小休の建札も残つて居るといふ。その家を訪ふことも美女谷温泉に行くことも時間に餘裕のない今回は割愛することゝして桂北小學校に戻り、中食をすませたのが實に午後三時であつた。同校に於いて校長諸星一三氏所藏の「御巡幸沿道神奈川縣管内略圖」を拜見する。同圖に東京府下布田驛、府中驛、日野驛、八王子驛の次に、神奈川縣管内の分として

- 小原町 小林庄右衛門宅 御小休
- 與瀬宿 坂本莊太郎宅 御小休
- 吉野驛 吉野十郎宅 御晝食
- 小淵村 秦松太郎宅 御小休

の四ヶ所が明記してある。御巡幸に關する沿道の精細圖が残されて居ることは御道筋研究上、誠に珍重すべきであつて、縣下行幸に關して特に沿道地圖が作成せられたのを見たのは是が初めてである。

この外與瀬町本陣坂本家所藏の宿割札 供奉皇族大臣參議勅任官



教育知事 中野健明氏の業績を偲びて

本會第二代会長 本會復興の元勳者

山田 豊次郎

神奈川縣教育會五十年史編輯主任

一 本會々長に知事が二代。中野氏は其の魁！本會創立以來茲に五十有一年間、會長を易ふること實に三十代、之を職務別にして見ると、民間より擧げられた第十七代大谷嘉兵衛翁を除くの外は、悉く所謂官僚知事で、知事が二代、書記官事務官理事官が都合七代、内務部長が十一代、學務部長が九代といふ色別けになる。而して知事にして最初に會長の椅子に坐つたのは實に本編の主人公 中野健明氏で、在任滿四箇年、本會復興の元勳者として永く其の功績を讃仰すべき恩人である。

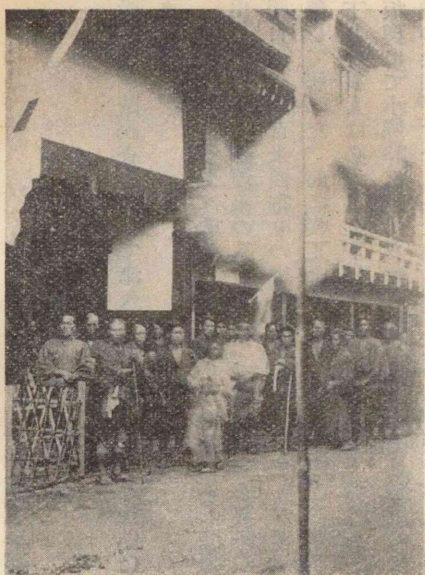
二 本會の改組と復興

前々號以來叙べ來つたやうに本會初代会長三橋信方氏は、英明の資を以て常に陣頭に立ち、銳意本會の發展を圖られ、其の業績頗る囑目すべきものがあつたが、時利あらずして中道にして會運次第に衰



供奉侍從長侍從  
供奉奏任官  
供奉判任官  
供奉等外吏  
供進所

の六枚を撮影してから諸星校長を先導として急ぎ調査に向ふ。先づ與瀬町御小休に際しての御膳水井戸を見る。佐藤實三氏所有地内にあれど現在貸家の雑水として使用せられて居り水質又汚濁にして昔の佛を存せず、井戸側も昔は木枠であつたが現在は煉瓦で角に積んであつた。それより西約一丁にして御小休所跡に着く。昔は十二間口の平家草葺の大きな家であつたといふ。御小休の部屋は離れ家にして上段の間となつて居りその左右に五疊づゝの控への間があつたといふ。こゝへ白木の御輿にて御成り遊ばされたのを主人莊太郎氏以下衣官束帯の正装にて御迎へ申上げたとの事である。この家は惜しくも大正六年二月焼失してしまひ現在建物なく荒廢して居るが、御庭は築山その他大體昔の佛を存して居つた。現戸主は正氏は退役の陸軍少佐にして現在滿洲國の官吏として任地にあるが、留守宅は舊宅の前である。當時の遺品としては前記宿割札の外に御小休の立札と手桶一個が保存せられて居るといふ。それ等の品々を拜見する道もなく吉野町に向ふ。吉野町役場の隣りに位する吉野小一郎氏の宅である。與瀬を御立ち遊ばされた鳳輦はこの吉野宅にて御晝休あらせられたのである、その時の寫眞が吉野家に珍藏せられて居つたことは實に縣下行幸史上特記すべき事である。寫眞に見る如く當時五階建の長屋門造りの大建築であつたことは、この邊陲の地としては實に稀に見るものであつた。その地階は倉庫で一階が居宅、二階に御座所を定められたといふ。是等の建築は明治二十九年十二月二十九日焼失して現在のは再



吉野小一郎氏舊宅

建のものである。當時の主人十郎氏は津久井の初代郡長を勤めた名望家であつたので、鳳輦駐蹕の光榮を讃えた縣令野村靖氏の筆蹟が今の二階に掲げられて居る。即ち

千秋 郁々

庚辰六月十七日  
鳳輦駐蹕吉野氏之家

へ、創立後六年、遂に涙を揮つて本會の解散を宣するの止むなきに至つたのである。  
是に於て三橋前會長は更に郡區委員を招集して本會の甦生を策し、從來會員組織なりしものを變更して、郡市教育會及び教育團體の聯合組織に改造して了つた。而して人心を一新すべく、自身は副會長に甘んじて輔弼の任に當り、表看板に知事を立て、會長とし、ひたすら會運の挽回を圖つた。



三 陣頭に立てる教育知事の活躍振り

時の知事は「教育知事」の令名隠れなき中野健明氏である。會步艱難の時局を打解すべく劇務を厭はず常に陣頭に立ちて士氣を鼓舞激励した。委員會は更なり、各郡市教育會の總集會等にも努めて出席して一場の告諭を與へた。尙ほ親しく縣内の小學校を巡視して、巨細に教育法の得失、設備の良否等を實地に調査し、且つ到る處、其の學校の教職員と懇談して激勵するを例とした。委員會等の際も、時々實際的教育問題を提出しては、其の答案を徴し、教育當事者の内省自奮の資料とした。第三回定期委員會に方り、諮問案として

とある。遺品として寫眞に見ゆる高札があらうと家族の方々に捜して頂いたが見當らず長一丈に及ぶ支柱のみを拜見した。後日主人小一郎氏に櫻井高城兩主事が面接その由を述べると、「實はその高札は粗末にしておけぬので私が代議士に選出されて大正天皇の御眞影を拜戴した時御眞影奉納の爲の御笥を謹製し奉つたのである、現にその御笥は私が寶藏して居ります」といふことであつた、御膳水は吉野宅裏の横井戸の水を使用せられたものであるといふ。現在は庭園の池に引水せられて居る。次で夕陽將に山の端にかくれんとするの時小淵村の御小休所跡に至る。この時幡野組合長、下條縣議も同道せられて種々便宜を與へらる昔は街道が桂川の川沿ひにあつたので、現在の街道より二百米も低下の地である。こゝに中の茶屋として秦松太郎氏が茶店を出して居た。この店の書院が桂川に面して居り鮎漁天覽の光榮に浴した場所である。その聖蹟地は明治四十年の大洪水に押されて破壊したので、現在の聖蹟標識は多少位置を移して前面の畑地に建てられて居る。文面は

謹書呈主人

野村 靖

(正面)  
明治大帝觀漁御遺跡

(右横)  
明治十三年六月十七日御駐蹕

(左横)  
ナシ

(裏面)  
小淵村青年團建之

とある。こゝで境川に架る境橋を渡ると山梨縣であるが、この川一つ向ふの山梨縣側に龜石と稱する岩塊がある。山梨縣側では藤村縣令がこの龜石の上に立つて鮎漁を指揮したと主張し左の如き標識を立て、置く。即ち

龜石

明治天皇鮎漁天覽ノ際山梨縣令藤村紫朗神奈川縣令野村靖嚴頭ニ立テ漁夫ヲ指揮セン處ナリ

昭和十一年八月八日

明治天皇聖蹟上野原保存會

とあつて、陛下が觀漁遊ばされた聖蹟も山梨縣側であるとして、同所に聖蹟の標識をも立て、ある。即ち

明治天皇御野立之所

明治十三年六月十七日鮎漁天覽アラセラレタル由緒地ナリ

昭和十一年八月八日

明治天皇聖蹟上野原保存會

とある。けれども鮎漁天覽の場所は本縣下の小淵村であることは前記の御巡幸管内繪圖に小淵村秦松太郎

「尋常小學校卒業生の實力は處世の用に堪へ能ふべきや否や各自の意見を問ふ。」

といふ實際に即せる問題を投げかけ、委員の答辯を求め、之に基づきて、其の救済改善の途を講ぜしむるやうに導きしが如き、氏一流の統督指導ぶりの一端を窺ふことが出来るであらう。

氏の特に力説せしは、「教育勅語の御趣旨の貫徹と其の實踐」「就學の督勵」「落第生の防止救済」等で、いづれも相當の反響を認むるを得た。氏の薨後、明治三十三年十月本會主催學術講演會席上、當時の文部省普通學務局長澤柳政太郎氏の述べられた演説中の一節に、

「本縣下は只今までは、教育大いに進歩せざりしが、夫れは今日まで種々の事情の爲に長官の盡力が充分に届かざることありしに由ると思考す。神奈川縣は横濱の如き全國第一の開港場を控へて居るがために、隨つて知事として外交其の他につきて繁務を極めらるゝことなれば、勢ひ幾分か教育行政の進歩上、爲めに妨害あるは免れざる所なりと雖も、故中野知事より漸々進歩に赴きたり。云々。」といつて、その功績を裏書してゐる。

四 死に臨んで猶ほ教育を念ふ

氏は元來蒲柳の質で、平素藥餌に親しんでゐた。藥瓶を掲げて會議の席に列したことさへ度々あつた。而も斯る病弱の軀を以てして、東奔西走、ひたぶるに教育の振興に對つて精進した。

明治三十一年五月十二日病みて薨す。享年五十有五。

本會雜誌第八號(明治三十一年九月發行)「本會長の薨去を悼む」の一節に曰く。



御小休と明記してあり、然も現にこの御小休所に充てさせられたる秦家の主人松太郎氏が現存して居り、當時の様子を明瞭に記憶して居る。將に夕闇の迫らんとする頃急ぎ同氏宅を訪ふてその語るところを聴けば、

私は今七十五歳であるが、御通輦になつた時は丁度十八歳の時で、陛下は御輿と御馬車に代る／＼召されて供奉の方々は全部徒歩であつたと記憶して居る。私の店は港屋と云ひ、店は道路の山側にあつたが、川沿ひの方に涼臺を造つておいた。それは二間三間の小さいものであるが、それをその筋から修復にお出でになつて、敷物も二枚通しのうすべりを敷いて、御座所に充て、中には緞子を覆ふた卓子を置いた。傍の一間と二間半の室を侍従の控へ間とされた。そして便殿の外には紫地に菊の御紋をうつた幕を張り廻らした。こゝから船一艘に漁師と船頭の二人が鮎を漁る有様を天覽遊ばされた。御小休時間は大體二時間半位であつた。そして漁獲の生鮎は行在所たる上野原本陣加藤景明宅へ運ばれた。御小休の光榮に浴した私宅へは金七圓の御下賜金があつた。そして表に建てた御小休の木札(高二尺三寸幅六寸八分厚七分)と長さ一丈に及ぶ支へ棒とは今も大切に保存して居る。云々

秦家は國道の變遷につれて街道筋に移つたが、道筋は土地陥没の危険があるので、更に丘腹に移り現在の八百三十七番地に定住することになつたのである。

陛下が御小休所に於て鮎天覽の上御徒歩にて境橋を渡らせ給ひ山梨縣令の御出迎えをうけさせられて、上野原行在所に御成り遊ばされたのである。故に觀漁の地は小淵村であつて、上野原側も御通御あらせられたことは事實である。以上秦翁の謹話並びに遺品等に依りて明らかであるが、更に確證づける史料がある。それは行幸に供奉した文學御用掛池原香榊の從駕日記「みともの數」に記された事實である。是は全行程に亘つて流石文學者だけあつて雄勁な文章を以て詳細綿密に記されて居るが我が神奈川縣管内御通御の六月十七日の條を全文登載することとする。

十七日 うへは例のごとく午前七時にいでた。昨日の雨なごりなくはれわたりて、空の色いとさやかなり。けふはこの驟より上野原のみとまりまで、大よそ山坂にて、けしき路なれば道はかどらじとて、おのれらはみくるまにさきだちて六時にいでたつ、こゝより西は、俄にはり直したる道ならねば、車をやるにたよりよし。みちゆく人のいふをきけば、それより駒木野までは、すこしのぼりなきにあらねど、車やらんにさせる障りなし。それより小佛驛の間は、おりのぼりあれど、強てゆかば車もかよふべし、といへり。されど、車丁等きのふの雨に困じて、疲れたるさまなればとて巖夫はわらぐつひかためて、かちよりゆく。

おのれもさるこゝろがまへはなしつれど、車丁猶こゝろを用ひてのせやくに、藪田、上栢田を過て、此のあたりより山のたゞまひ唯ならず、溪水とところどころながれて、人すむ家こだちのひまに見ゆるもいと興ありかくてやう／＼午前八時ばかり、小佛村に來たり。

この村の南側になるを駒木野川といふといへり、こゝにやまめといふ魚あり、はえに似て味いとよし、けさ八王子のやどりを立いづる朝げにくびたり。おもふにやまめは、山あめのつゞまりにもやあらん。思ふことよしかたともなしをへてさてこゝをまめすらすをのとも。こゝより小佛たうげの坂にかゝれば、うへは御板

「惟ふに縣治上、君が畫策經營苦慮せられし所蓋し甚だ多からん。就中力を教育に致し士民將來の幸福と國家前途の隆盛とを希圖せられ、教授訓練の得失を視、設備管理の可否を察し、獎勵し、誘掖し、輔導し、訓諭し、諄々倦まず、孜孜止めず。誠意を體となし、勵精を用となし、只管其の改良上進を促されしは洵に著明の事實なり。而して深く勅語の聖意を體し、率先躬行、大に之が貫徹に苦慮せられ、爲に一縣靡然として其の徳に化し、其の風を仰ぎ、教育の情勢頓に面目を一新せしが如きに至つては、吾人の常に竊かに歎服に堪へざる所なりき。聞く、君病床に在りて、尚ほ意を教育に注ぎ、薨去の前一日教育に關して言はんと欲する所あり。而して終に果さざりきと。云々」と歎美してゐる。實に本縣教育刷新の魁は中野知事であり、本會復興の元勳も亦中野會長であるといつてよからう。

### 惟神寮の鎮座祭に就いて

#### 神奈川縣女子師範學校

當女子師範學校に精神道場を設立すると云ふ計議が決定されて、地鎮祭の行はれたのが昨年の八月であつた。其の後、文部省及び縣當局の御盡力を仰いで、工事も著々と進捗し、舊臘にはその落成を見るに至つた。この間生徒一同は、教師と共に一團となつて、夏日の下に土盛地均の奉仕勞作に勤しんだ

與にめしかへさせ給ふ

御ともの中にも御列外の人々は、かねてこゝにさるこゝろがまへしたる、山かごといふもののがおほかりおのれもこれにうちりて、やう／＼山近うなれば、朝露をふくめる樹々のみどり、吹きわたるあらしにうちそよぎて、すゞしいはにかたなきに、溪川のながれさやかに、蛙のこゑほかに聞ゆるに、巖夫

夏山のみとりいろそふたにかはになくや蛙のこゑさやけき。のぼりゆくまゝ路さかしく、右左にをれまがりてかのかごといふにさへ居つかねば、をり／＼おりてありくほどあしたし。

さかしさにつかるゝ足のすゝまねば立すくみにやわれもなりなん

かくよめるは、此嶺のいたゞきに石の地蔵あるをもて小佛の名おこれりといへり。伊勢のいみ詞に、佛をたちすくみとあるによれるなり、いたゞき近うなりて、朝日のさやかに晴てりかゞやくに、あつけき限りなし

こゝの木蔭に風をまち、かしこのいはほにあしをやすめて、東南をのぞめば朝もやのはれなんとするひまに、相模川と荒川とひとつになりてながるゝ大河みゆ。さながら海のごとし。立しげれるはやしに鶯の絶す打なくを聞て、今ぞしるみやまの奥のうぐひすはかならず春のものとしもなし。からうじていたゞきにいたりぬ

こゝに御いこひ所あり。佐藤清兵衛が家なり。巖夫はおのれよりさきにこゝの木の芽煮る家にいこひをり

くだらんとするに、此國と信濃の山々、みどりふかく立かさなりたる中に、白雲の布ひきはへたらんやうにとさせるさま、いとをかしきに、そのうへより不盡のねのいたゞき白うあらはれたる、たとふべきものなし

巖夫とりあへず、久かたの雲より上におけるゆきこそふじの高ねなりけれ。しばし見わたるに、朝あらしうちふくほど、立おほへる雲のすがたの變りゆくに、あらはれむとしてはまた立かくれつゝ、見るがうちにさま／＼なりもてゆくがめもあやなり

うへもさこそはめづらしと見そはしつらめ。このけしきのあかずめでたきに、ふところ紙とらう出て、其かたをうつしぬれど、筆たつべくあらず

大君をむかへまつりてふしのねもみともつかふるけふにやはあらぬ。さてこのたうげのいたゞきなん、武蔵相模の國のさかひなりける。

そも／＼佐加美、牟佐之といふ名の義、縣居の説に、身狭の國なり。西國北國にては前後もて國をわけ、東國にては、上下もて分る例あれば、こは身狭上、身狭下の略なり、といはれつれど穩ならず、と諸國名義考に、齋藤彦麻呂がひいたるは、さる事なるべし。

さるは、此國などいづれも小き國にあらず、相模は八郡、武蔵は二十四郡ありて、身狭といふべきにあらぬをや。按ふに東國、いにしへ幾内近き邦の如く、はやく國の名をそれ／＼にわかちつけたるには、あるべからず。日本武命のいでましたる頃までは、猶あづまみしといふばかりなれば、その國の名もおほよそにつけたるべくおもはる。おのれはこれを布佐加美、布佐志毛といはんか、もと此邊、なべて草木五穀のふさやかに生出るより、おほせたる名なる事は、古語拾遺に

令下天富命。率二齋部諸氏。作種種神寶。鏡。玉。矛。盾。木綿。麻等。云々。

天日鷲命之孫。造二木綿。及麻。並織布。仍令下天富命。率二日鷲命之孫。求二肥饑地。遣二阿波國。殖中穀麻種。具商。今在二彼國。當二大昔之年。貢二木綿麻布。及種種物。所以郡名爲二麻殖。之緣也。天富命。更求二沃壤。分二阿波齋部。率二住東土。播二殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。

殖麻穀。好麻所。生。故謂二之總國。穀木所。生。



故謂之結城郡。古語麻謂之總。也今爲上總下總二國。是也阿波忌部所居。便名安房郡。今安房天富命。即於其他。立太玉命社。今謂之安房社。とあるにて著明しかれば安房も、阿波も、も同じ義にて、阿布佐、といふ詞の約りたるなり。阿は發語にて、布佐をついで、はといへるものなり。この、好麻所生を總の國といふ、とある總の國は、上總、下總、安房のみに限らず、このさがみむしをかねていへり、とおぼし。

後に餘り廣きに過て、それらに國をわかつて、此五國つぎつぎに並び、其草木、麻、穀も大かた差ふことなく、生出るに、此二國のこの、古語拾遺などにも見ざるは、たまたま古傳の漏たるにてもあるべし。

さて上つふさの國、しもつふさの國とわかれ、上下を房といふことの、上につけてよび、さて又ふさかみの國ふさしもの國、と上下の房の下につけてよびしものなるべし。彦麻呂は、國名に、上某下某といふはあれど、某上、某下といふはなし。されど郡名にはあれど、それは異なり、と云り。この説もうけがたかるべし。

郡名に、某上、某下、といふがあらば、國の名にもなかつげざらん。さてふさかみの、ふを省きて、さがみといひ、ふさしもの、もを省きて、ふさしといひしが、ふの音の便りにつきて、今は、むさし、といふやうによびなせるなり。こはおのがこを過るにつきて、ふとおもひよれることをしるしつけぬ。さだめてひがごとならんかし。こよりくだりくだりて、路の左のかたの川向ひに、千喜良村といふあり、此川は、猿橋の川上なりといへり。此あたり、小佛嶺の西のかたの麓なり。

さるかた田舎なれど、御輦を拜まんとて、道に集ひて待奉るが多し。

ゆくりなきけふのみゆきのあとめていく萬代とさらにかきらむ。このさと人にかはりて、こゝろみに其のこゝろをいふなり。やうく尾原村にいたれり。

尾原といふは、この嶺の尾さきにて、くだりはたるところの、すこしひらけたれば、名に負たりとおぼし折しも空少し曇りて、雨のはらりと打降て過ゆくに、わけきつる高嶺の道は雲とちて小原の里に村さめそふる。

くだりて野だてのこひひ所あり。こゝにてみともの人々に、つゝみいひ給へり。

そは、けふのみひるのやどまでは、道のほど遠く、山坂のさかしかるさへおほければとてなりけり。

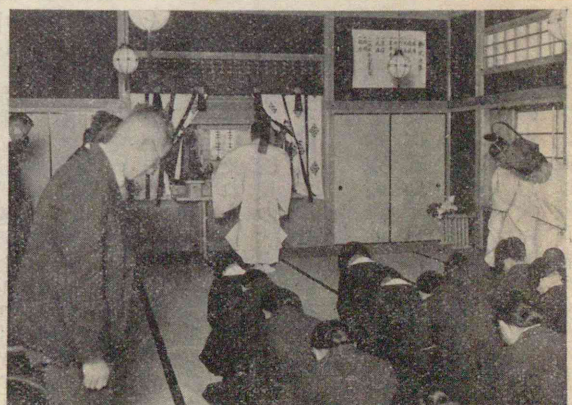
くだりつきたる所を、平坦なりとおもふものの、猶やま組の道の、あるはのぼり、あるはくだり、左右にをれまがりて、ほとと息もつきあへず。ところどころの溪水に、あらたに橋をかけわたして、名さへ新しくつげたり、とおぼしきが、いくつともなくかゝれり。

おほよそ一里ばかりにして、與瀬の驛につきぬ。家の數百五十ばかりにて、みな農家なり。

いにしへにこゝろをよせてかひなば里の名いかにうれしからまし。こゝよりかのかごをかへしぬ、こゝにも御いこひ所あり。坂本莊太郎の家なり。そのすこしかたへに、與瀬神社あり。祭る神日本武命なり。數十丈の石段あり、御社は光たる杉の、蔭くしく茂れる中において、まことに神さびたり。つくりざまのたくみなることかゝる山中にはまたあるべしとおもはれず、と巖夫まうでてかたれり。おのれは例の車にのりたれば、えのぼらず。十二時過るこゝ吉野驛につく。このいりんとする所に赤坂といふあり。

赤坂もよしの同じ名にしあればあらぬ國にもいにしへおもほゆ。かくて此驛の、榎本鐵五郎がりいたりつきて、ひるけくひつ。この家のうしろに相模川流る。

それをへだて、むかひのかたの山、こゝにおかしく、松杉などの立ならびたるさま、から給にいとよく似たるが中に、



神座祭  
祭主の挨拶が済むと式は一度閉ぢられた。この間、一般生徒は代表參列者を除いて、夫々の教室で教育勅語の淨書を行つてゐた。式場の廣さ

の關係から全校生徒を列席させられなかつたからである。それで式後各學年は、級擔任引率の下に、順次、祭屋への參拜を遂げ、玉串を奉奠した。斯くて神殿の扉は嚴かにとざされ、當日の祭祀はめでたくここに終了したのである。

懷ふに爾後、この神の御前に畏み集うて、生徒各自が、眞實の魂を鍛へ、肚を鍊り、惟神の教智を體して、他日教壇に起つ事が出来たならば、その力は如何に輝かしいものであらうか。動もすれば人心の歸趨を、なほ過つ事の多い今日、私達は一層自重自戒して中正堅固な信念を培ふ必要を痛感するのである。

尙此の日午後二時から記念講演會が催され講師は伯爵二荒芳徳閣下で「かんながらの道」について今

腕をふせたるさましたる芝山を、しつき山といふとぞ。こは雪などのつもれるをり、この芝山のみつもりもあへず、しつれ落るよりこの名あり、といへり。

こゝを立出てゆけば藤野村あり。その左のかたに、杉村といふが見ゆ。すこしゆけば岡野なり。

先みゆるかの杉村にしろれりせきの近くやならんとすらん。一時過るこゝより空ことに晴て、いと暑くなれり。吉野坂をこゆ。小淵村にかゝる、高きひきき丘山よにもめぐりて、けしきいとおもしろし。

此ほとりの山里蠶飼のこゝにて、今年はこゝによくまゆこもれりとて、こゝらのたみども、みなよろこびあひて、みくるまをむかへ奉れり。藤橋といふちひきはし此村にあり。のぼりて、少女村にいたる。

道の高低かぎりなく多くて、をとめ村のたうげのいたゞきより、相模川を見るに、百丈ばかりの巨巖、岬をなして、水の面にもめづかなるいはほども、おほくぬけいで、水のいきほひことにはげしく、白雪のうちゝるやうにみえたるが、其中に舟をうかべて、あゆつるものあまたあり。此魚春の末より秋のなかばまで、この川に多し、其釣するやうは、木にて同じ魚の形したるをつくりて、はりをそれにつけてなんつれる、これを此あたりにては、友づりといふとぞ。

こゝにも野だての御休ひ所ありて、うへもしばしみえなはし給へり。巖夫

わかゆつるこの河岸にすむ人は老てふこともしらずや有らん、少しゆけば小きき流れの、相模川に落る澗川あり橋をわたせり、堺川といへり、これ相模と甲斐との境なれば、しか名つけたるなるべし。

けふわたるかひとさがみの境川をへぬ旅のこゝちこそせぬ。こゝより西は相模川のことを桂川といへり、堺川橋をわたりて、五十間餘りの坂あり、をとめ坂といふ。これより山梨縣なれば、縣令藤村紫朗、この所に御輦を待迎へ奉れり。こゝより路やうくたかくなりて、上の原の村口にいるまでしかなりしが、宇諏訪といふところまで、又少しづゝのくだりて、道いとよし、この村のはしつかたに、山内とみといふ家ありて、みいこひ所となりて、これまでの御輦をこゝより御輦にめしかへさせたまへり。このほとり人あまた集ひて、人民總代のいふもの、又はもろゝの學校の弟子ども數をつくりて並びをり、すべてかひのくに、いりてより人みなすなほに見ゆれども、此のあたり山中の遠さとゆゑか、人の品はすこしやしげなる物から、東京のならばしによりて、女どものきぬなど、さはいへ色よき絹著たるが多かり、おのれら午後三時ばかり、上野原驛につきぬ、こゝは北都留郡につけり、富田秀實といへる書肆を今宵のあるじとしつ。うへは五時ばかりにつかされたまひて、加藤景明といふものゝ家を在所と定めさせたまへり。云々

とある如く境川の手前に御野立ありて漁獵をみそなはし給ふたことが記されて居る。以上の如く小淵村の聖蹟は由緒あるものであるから縣としても、眞相を誤らぬ様よく精査して小淵村の榮譽を永久に傳へねばならないと思ふ。

尙ほ當時の御巡幸の御有様を逐一報導した有喜世新聞が東京府西多摩郡青梅町の稲葉庫太氏宅にあつたのを、内郷村長長谷川一郎氏が淨寫して珍蔵して居られる。今その神奈川縣關係記事を摘録して當時の様子を偲ぶこととする。

御巡幸紀事 (第三報) 牧田生報

十七日晴七時八王子、所在所、御發聲今日は最麗か空に晴れ渡り驛中旭日の提灯を一條の繩に連れ小學生徒路の傍に迎へ奉りぬ、散田下長房などの村を過ぎ上桐田村に至れば鳥羽繪に祭禮と記したる提灯を掲げ、風聲を迎へ此村より高尾山藥王院への道あり伏見宮三條公には參詣せられたり、小佛村鈴木藤左衛門方にて御小憩是より、御板輿に遷らせ給ひ小佛峠を登り玉ふ路屈曲にして甚だ險しく頂上の佐藤清兵衛方にて御小憩あり。

- 日の催しに極めてふさはしいお話があり聴講者一同に深い感銘を與へられた。
- 當日御參會下さつた來賓諸氏は左記の通りである。
- 謹んで感謝の意を表する。
- 大森學務課長、湯淺縣屬、藤崎縣屬、露木縣屬、荒井社會教育主事、櫻井縣教育會主事、末永縣技手、五十嵐川崎中學校長、鈴木愛甲農業學校長、森久保戸塚實科高女長、島津横須賀高女教諭
- 修養道場性神寮概要**
- 一、本道場ハ惟神寮ト稱ス
  - 一、建設ノ目的
 

皇道精神ノ徹底ヲ期シ國民教育者又ハ日本女性トシテノ情操信念ヲ涵養シ確立スル爲本道場ヲ建設シ生徒職員ヲシテ日々出入セシメ以テ本校精神教育ノ中樞タラシメントス
  - 一、使用ノ方法
    - 1 本道場ハ一學級ヲ單位トシテ使用ス從ツテ五十人收容ヲ考慮シテ設備ヲナス
    - 2 生徒ヲ本體トシテ使用スル外職員、卒業生等ノ修養會場トシテ使用スルモノトス
    - 3 本道場ハ目的達成ノため左記事項ヲ行フ
      - 皇祖ノ奉祀 靜座凝念 反省謝恩 誓文誦唱
      - 級主任ヲ中心トスル座談會
      - 修養並ニ實踐指導ノ會合
      - 修養講話、靜座、座談會、研究會、作法ノ實踐、其ノ他
  - 一、祭神奉祀
 

昭和十年三月三十日、學校長以下職員生徒代表 伊勢大廟ニ參拜シ大麻ヲ奉戴シ爾後御眞影奉安庫ニ安置シ奉リシガ道場落成ヲ待チテ其神殿ニ奉遷ス

一、毎週壹錢貯金

皇祖奉祀ヲ目的トシテ昭和九年十二月ヨリ同十年十一月



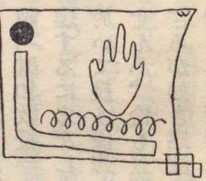
仰ぎ望めば富士の高嶺白雲を凌ぎて聳え願れば多摩の流れ一條の布を引きしに以て四方の連山は、皇運を祝するの色あり。  
 馳て此を發せ給ひ坂を下るに最も急なり羊腸の路に所々欄干を設け板橋村御小休の時人夫に握り飯を與へ、小原驛の小林庄左衛門にて又御小憩あり、國旗提灯等いと面白く小學生も多く奉迎し與瀬驛坂本莊太郎方に御小憩の折りは神官四人迎へ奉まつる、此所に日本武尊の社あり。  
 十二時十五分吉野驛吉野十郎方へ着御、該驛は戸數七十餘なれども分署あり(註、八王子警察署分署)  
 驛の入口にはアーチを造り球燈を掲げ小學生六十名程迎へ奉る、御晝餐畢つて、御發與又坂を上る路に橋あり水車あり頂上を下る瀧あり眺望色々と變化して遠山は烟の如く近山は藍の如く座に旅嚮を慰むる計なり、境川に至れば藤村山梨縣令縣會議員商法會議所議員を率ゐて出迎へあり、聖上には此時神妙との、勅語を下さる、境川橋は甲相の國境神奈川縣山梨縣の管轄さかひにて野村君は此にて御暇を賜はる、川中にて鮎網を、天覽あり此より山梨縣警察官吏の警衛にて乙女坂を過ぎて乙女橋を渡りて小淵にて御小憩、此より諏訪坂を上り山内多美にて御馬車に遷らせ給ひ五時十五分上野原驛所在所加藤景明へ、着御まし〜たり、驛の戸數は五百三十餘にして養蠶家多く路傍は皆桑園にて蒼々の色いと新らし。  
 以上で十七日の記事は終つて居るが、肝心の甲相國境に於ける記述が前後撞着して居り、小淵村が山梨縣管内の如く見えるけれども、是は記者の誤聞に基づく報導と見るべきである。依つて鮎漁天覽場所がどちら側であるかを知る参考とはならないが、當時の様子は充分に伺ふことが出来やう。  
 扱てこの山梨三重京都御巡幸に際しての供奉員に就いては明治十三年五月二十五日東京日本橋區田所町十八番地の半井幸太郎が出版した供奉官員錄に

太政大臣	從一位勳一等	三條實美	同	工兵中尉	兒玉德太郎
參議	正四位勳一等	寺島宗則	同	步兵少尉	志道保勝
同	同	伊藤博文	同	同	内山滿之
同	同	山田顯義	同	陸軍少佐兼少警視	三間正弘
文部卿	從四位勳二等	河野敏鎌	同	宮内少輔	土方久元
同	同	松方正義	同	大書記官	香川敬三
内務卿	正二位勳一等	德大寺實則	同	大書記官	兒玉愛二郎
同	同	野津鎮雄	同	少書記官	足立正聲
陸軍中將	正五位勳二等	佐久間一介	同	一等侍醫	池田謙齋
同	同	伊藤巳代治	同	二等侍醫	岩佐純
同	同	石井邦猷	同	醫員	平野好德
中警視	同	櫻井能監	同	同	南部一政
同	同	大藏少書記官	同	同	九茂文興
同	同	陸軍歩兵大尉	同	同	石井澄
同	同	中尉	同	侍從	米田虎雄
侍從	同	山口正定	同	調度課	谷村一等屬
同	同	堀川康隆	同	同	菅野七等屬
同	同	富小路敬直	同	同	田村七等屬
同	同	西四辻公業	同	同	永田九等屬
同	同	北條氏恭	同	同	長岡等外一等
同	同	片岡利和	同	同	壁谷等外一等
同	同	太田左門	同	同	小笠原一等屬
同	同	藤波言忠	同	同	津田六等屬
同	同	廣幡忠朝	同	同	葉室雜掌
同	同	平尾錦藏	同	同	村上同
同	同	田邊一等屬	同	同	大原同
同	同	稻生八等屬	同	同	武藤同
同	同	林九等屬	同	同	大谷同
同	同	深山十七等	同	同	安島同
同	同	麻見一等屬	同	同	高見同
同	同	高木五等屬	同	同	坂本同
同	同	大川等外三等	同	同	吉利同
同	同	松井一等屬	同	同	井上同
同	同	安八等屬	同	同	淵川八等屬
同	同	福田八等屬	同	同	大岡十等屬
同	同	音川八等屬	同	同	林一等仕人
同	同	田中八等屬	同	同	木村同
同	同	松岡九等屬	同	同	水郡同
同	同	樺島九等屬	同	同	大友同
同	同	岡田等外二等	同	同	五十川二等仕人
同	同	利倉等外二等	同	同	富永同
同	同	太田等外五等	同	同	八森同
同	同	雇五人	同	同	中野同
同	同	小平七等屬	同	同	小畑同
同	同	森田七等屬	同	同	鈴木同
同	同	山田十等屬	同	同	平井同
同	同	牧十等屬	同	同	古龍同
同	同	職工八人	同	同	

侍從	同	山口正定	同	調度課	谷村一等屬
同	同	堀川康隆	同	同	菅野七等屬
同	同	富小路敬直	同	同	田村七等屬
同	同	西四辻公業	同	同	永田九等屬
同	同	北條氏恭	同	同	長岡等外一等
同	同	片岡利和	同	同	壁谷等外一等
同	同	太田左門	同	同	小笠原一等屬
同	同	藤波言忠	同	同	津田六等屬
同	同	廣幡忠朝	同	同	葉室雜掌
同	同	平尾錦藏	同	同	村上同
同	同	田邊一等屬	同	同	大原同
同	同	稻生八等屬	同	同	武藤同
同	同	林九等屬	同	同	大谷同
同	同	深山十七等	同	同	安島同
同	同	麻見一等屬	同	同	高見同
同	同	高木五等屬	同	同	坂本同
同	同	大川等外三等	同	同	吉利同
同	同	松井一等屬	同	同	井上同
同	同	安八等屬	同	同	淵川八等屬
同	同	福田八等屬	同	同	大岡十等屬
同	同	音川八等屬	同	同	林一等仕人
同	同	田中八等屬	同	同	木村同
同	同	松岡九等屬	同	同	水郡同
同	同	樺島九等屬	同	同	大友同
同	同	岡田等外二等	同	同	五十川二等仕人
同	同	利倉等外二等	同	同	富永同
同	同	太田等外五等	同	同	八森同
同	同	雇五人	同	同	中野同
同	同	小平七等屬	同	同	小畑同
同	同	森田七等屬	同	同	鈴木同
同	同	山田十等屬	同	同	平井同
同	同	牧十等屬	同	同	古龍同
同	同	職工八人	同	同	

マデ本校附屬職員生徒兒童每週壹錢ノ貯金ヲナシ元利合計四百五拾六圓貳錢ヲ得タリ。神殿、佛壇、奉祀用具ソノ他諸設備ハ多クコレニヨリテ成レルモノナリ

- 一、道場ノ概要
- 敷地 一七五坪
  - 建坪 四二・三〇坪
  - 神殿ノ間 一九・二五坪
  - 中央ノ壇上ニ神殿ヲ安置シ、祭神トシテ前記 皇太神宮大祓ヲ奉遷ス。本道場ノ中樞ニシテ、皇祖奉祀、禮拜、清掃靜座、講話、淨書等ノ修養行事ヲナス
  - 佛壇ノ間 四坪
  - 佛壇ヲ設ケ佛祖ヲマツリ彼岸會、佛生會、聖德太子祭、盆供養等ノ行事ヲナシ且ツ生徒近親ノ物故者ノ改名ヲ納メテ各自ソノ命日ニ禮拜スル等家族的宗教的情操涵養ノ意味ノ催ヲナス
  - 整容ノ間 二・二五坪
  - 道場ニ入ル際必ズ淨身整容ヲナサシムルタメニコノ設備ヲナス
  - 玄關 二坪
  - 一、建設經過
  - 地平作業 昭和十一年六月中旬ヨリ同七月下旬ニカケテ職員生徒放課後ノ作業トシテ學級別ニ之ヲナス
  - 地鎮祭 昭和十一年八月二十一日施行
  - 工事開始 昭和十一年八月二十七日
  - 工事終了 昭和十一年十一月二十日
  - 費用
  - 金貳千圓 文部省交付金
  - 金貳千圓 縣支出金
  - 金參千五百圓 請負金
  - 金壹百八拾五圓 設備品
  - 金參百拾五圓 其他
  - 一、鎮座祭 昭和十二年二月十七日



融和教育教授案  
 懸賞募集當選發表

神奈川縣融和教育研究會の本年事業として、修身科教案の懸賞募集をすることになり發表したのは昨年七月であつた。愈々豫定通り各審査官によつて左記の通り當選決定す。

- 當選
- 第一等 高等小學修身書卷第二十課
    - 「博愛」 都筑郡田奈小學校校長 石川俊藏氏
  - 第二等 高等小學修身書卷第二十一課
    - 「學問」 都筑郡田奈小學校訓導 林進治氏
    - 高等小學修身書卷第二十課
      - 「博愛」 中郡高部屋小學校訓導 清水文夫氏
    - 選外佳作
      - 高等小學修身書卷第二十課
        - 「博愛」 中郡秦野小學校訓導 平田重次氏



侍 醫 附	與 一 丁	小 田 野 同	勝 山 同
		清 水 同	東 合 三 等 仕 人
		鈴 木 三 等 仕 人	川 上 二 等 屬
		中 川 同	河 北 同
		今 北 同	鈴 木 九 等 屬
		師 岡 同	山 口 一 等 取 者
		加 納 同	目 賀 田 三 等 取 者
		新 畑 三 等 仕 人	石 原 十 七 等 取 者
		田 付 同	土 居 十 七 等 取 者
		植 澤 二 等 仕 人	林 十 七 等 取 者
		田 中 同	岡 本 十 六 等
		千 代 間 三 等 仕 人	志 村 十 五 等
		植 部 同	小 柴 十 五 等
		龜 田 同	遠 藤 外 二 等
		山 本 同	馬 丁 三 十 二 人
		上 田 同	磨 方 六 人
		山 崎 同	丸 西 式 部 助
		野 崎 同	小 西 三 等 掌 典
		奥 崎 同	藏 田 三 級 掌 典 補
		野 崎 同	朝 倉 十 七 等
		清 水 同	松 倉 外 二 等
		近 藤 同	小 谷 外 三 等

右は出發前の任命であつて實際の供奉に當つては多少の變更があつた様である。即ち明治天皇行幸史録を見るに野津中將や池田一等侍醫の名は見えずして、二品貞愛親王をはじめ

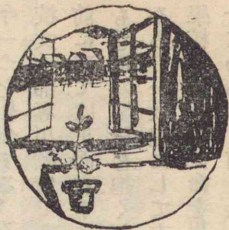
の諸氏が供奉員に加へられて居る。以上記された供奉員の中、山口一等取者が我が神奈川県津久井の出身であることは特筆すべきことである。共濟會主事高城研氏の親戚に當る津久井郡内郷村の山口三吉氏は取者山口氏の甥に當る人で津久井御通御の御吉野にて歯簿を拜觀した方であり元津久井郡立蠶業學校の校長をして居られた人であるが、現在山口氏の履歷書を所持して居られる。山口取者は幾度か御巡幸供奉の光榮に浴した優秀取者にして實に本縣としても誇るべき一人である。

三等編修官	久米邦武	同	福崎正名
御用掛	岩倉具定	同	野木精之
陸軍中將	三浦梧樓	騎兵中尉	山岡光行
近衛歩兵大尉	松永正敏	一等侍醫	伊東方成
近衛歩兵少佐	大迫尚敏	侍	東園基愛
同	町田實賢	御用掛	池原香稗
歩兵大尉	馬渡平藏	御用掛	
歩兵中尉			

審査後に於ける所感一束

應募答案は概ね當局の指示されたる募集の精神に適ひて然かも各々特色を有し、其の指導上に於ける信念將又熱意考の點に於いて傾聴に價すべきもの尠なからず、然りと雖も其の殆ど總べてを通じて希望に堪へざる一事の存するあり、乃ち一言以つて之を掩へば、應募者の多くが其の立案するところ所謂「融和教授」の域に止りて「融和教育」にまで到達するに未だしき憾みあること是なり。即ち前者に於いて幾多優秀なる成案ありと雖も後者の觀點よりせんか、恰も登攀九合目にして惜くも絶頂を極め得ざるが如き感深く、百尺竿頭猶一步を進むべきを切願するの情禁じ得ざるものあり。

- 尋常小學修身書卷五第十九課
- 「朋友」
- 足柄下郡酒匂小學校訓導 原 直吉氏
- 尋常小學修身書卷四第二十六課
- 「人の名譽を重んぜよ」
- 愛甲郡清水小學校訓導 關 戸 公 平 氏
- 尋常小學修身書卷六第二、三課
- 「國運發展」
- 足柄下郡酒匂小學校訓導 田 代 寅 三 郎 氏
- 高等小學修身書卷二第十課
- 「博 愛」
- 川崎市川崎高等小學校訓導 山 本 孫 義 氏



嗚呼感激深し茨城縣 日高村の全村教育

鎌倉郡瀬谷小學校 岩 本 正 義

昭和十二年一月二十二日午前九時東京上野驛發常盤線列車は、全村教育を以て嗚り昨年、農林大臣賞を授與されし、茨城縣多賀郡日高村として視察の途についた一行六名(神奈川縣視學葛田公男氏、三浦郡鴨居小學校長加渡田武男氏、三浦郡久里濱小學校長石井盛雄氏、津久井郡吉野小學校長加藤助次氏、鎌倉郡本郷小學校長杉山清茂氏、及び小生)を乗せて走つた。午後一時頃日立鑛山を以て名高い助川驛の次驛小木津驛についた。それより東方約三百米の小高い所に全村教育の中樞たる日高尋常高等小學校がある。一行はこの中樞を尋ねて、校長渡邊四郎氏の話しに耳を傾けた。謹嚴そのもの、校長は開口一番、やあ此村は元酒狂、政治狂の村でしてねと頭を撫でながら、ぼつり／＼語り出された。由來此村は秀麗なる山河に包まれ、豊かなる海濱に臨み、豊穰なる土地の上に立ち至便なる交通の益を受け農業を本業とし、其他の副業を営みつゝ安住の地とし、純且素樸、豊富なる生計を営み、和樂の中に生活したのださうだ。然るに明治の中葉以降時代の悪思潮に禍され、享樂的なる氣分にひたり、或は投機的なる事業に手を染むる者出で、從來の善美なる氣風を破壊し、兼ねて中央政争の餘派を受けて、政治黨争は

剛の大人物であつたらしく、沈思默考、大死一番して、皇國精神に更生し、迷妄を破つて時局に對應しなければならぬと堅き決心のもとに着任されたらしい。以下この活きた豪傑校長の片鱗を紹介する。教育の骨は食物の味に等しい。如何に材料を並べたとしても、下手な料理は食べられないと同様である。其骨は人々に與へられたる生得のものである。素りに教育者となつてはならない。渡邊校長は先づ教育の理想は現實を引延ばして理想に近からしむるにあるのだから、郷に入りては郷に従はねばならぬと考へられ、酒に酔うて來る者を片端から引受けて、毎日徹底的に然も滿二ケ年も飲んださうだ。(尤も渡邊氏は酒は好ではないが飲めば飲める腕を持つてゐたとの事)こゝに又外界の有力なる後援者があらはれた。それは現在村會議員、郵便局長等をしてゐる村内屈指の資産家の主人公大森善心其の人である。この人は元茨城縣師範學校を卒業し、其後十ヶ年間計り教育の實際に携はり其後退職して、郷里日高村に居り常に頹廢せる村勢を更正し、村民の福利を増進したきものと考へてゐたとの事だが、斯の如く混亂せる村では誰にも敵もあれば味方もあるといふ風でとても駄目だ。それには小學校長の如く外來の無色無臭のものゝ指導を願ひ教育の力によつて更生するより外に途なしとし、渡邊校長を徹底的に應援し、豫ての宿願を達成せんと、渡邊校長の蔭となり或は陽となりして之を援助した。そして酒に倒れし校長を背中に負つて家に送り届けし事も毎晩の様だつたとか。渡邊校長の酒飲みは大石良雄の京の遊びに似て腹に一物あり、所謂酒に飲まるゝ事なく、酒を道具として酒に任せて酒の害及學校を酒場とする等の不合理、政争の不可なる事等を諄々として解



いた。この誘導教化は遂に村民大衆の共鳴するとこ  
 ろとなり、二年後にはさしもの酒飲も一人も學校を  
 尋ねるものとはなく、又家庭に於ても、料理屋に  
 於ても酒のみの跡を絶ち、政治黨争も自然になくな  
 り、今や全村和衷協同、相互切磋、共存共榮を念と  
 し、學校を中心に團結し、村是の實行に邁進しつゝ  
 あるとの事だ、料理は材料だけでは食べられない。  
 少量の調味料で味をつけてこそ始めて食べられる。  
 日高村民は料理の材料に當り二人は此場合調味料に  
 當る。かくして日高の村は味を見せた。こゝに於て  
 大森氏の教育第一主義は實を結び、村人から教育放  
 送部長だとか、やれ副校長だとか、或は又選挙の一  
 票を得んが爲の應援だとか等いふ悪口は完全に解消  
 してしまつた。武田信玄公の所謂人となれ人、人と  
 なせ人となつたわけだ。至誠にして動かさざる者は  
 未だこれ有らざるなりは此二人の如きものをいふの  
 であらふ。世には失敗で倒れる人より自分から降参  
 して下ふ人の方が遙に多いのによくもかく辛抱した  
 ものだと其巧妙なる手腕に感心させられた。尙學校  
 内部職員の一一致團結、及家庭悲劇一つ起さず舊地に  
 突進の出来たのは、一に日高小學校職員各位の見識  
 の高きと渾身の努力、校長の奥さんの理解ある内助  
 の功大なるものあるに敬服させられたものである。  
 尙こゝに眼頭の熱くなるを禁ずる事の出来ないもの  
 今一つを紹介する。それは昨秋竣工せる由の青年學  
 校女子部専用教室である。新装も清々しい新教室の  
 前に立てば正面右手に開口一間半の玄關が厳然と而  
 も慈母の嬰兒を抱くが如き風情を以て我等を招いて  
 ゐる。一教室にして玄關を有する建築此處に既に小  
 學校と其立場使命を異にする青年學校独自の姿を見  
 せてゐるのも何となく心強く感ずる。一步室内に入

れば左手は一間の廣々とした廊下が明るく續き、更  
 に二歩、三歩手應へも輕きガラス戸を押せば嗚呼何  
 たる壯觀、何たる感激、正面には二間の床の間を中  
 央に弓手に押入、馬手に違ひ棚、續いて五十六疊敷  
 の廣間には東西南の三方より入る陽光に一條の隅も  
 なく明るい。斯くも廣大にして而も華を去り質的  
 なる合理的設計をあまり見ないのであるが、その出  
 現せしは校長の燃ゆるが如き愛郷の至誠と校長の奥  
 さんの献身的努力が村人を動かし、職工連を感激せ  
 しめ僅か千圓の寄附金で完成したとの事だつた。あ  
 りこの汗と涙の結晶こそは日高青年教育の基礎益々  
 固きものあるを思はしめる。以下項を追ふて日高村  
 全村教育の概要を記載し以て参考に資したいと思  
 ふ。

日高村全村教育規定

- 第一條 本村教育機構を日高村全村教育と稱す
- 第二條 本村全村教育は本村の實情に鑑み各種團體を統制し其特質を發揮しつゝ各分に應じて教育作業に當り全村を教育精神にて飽和し以て村民の品性を陶冶し知能を啓發し特に協同の美風愛郷の精神を涵養し延びて産業の發展自治の向上に資し教育と産業道徳經濟融合の理想郷建設を以て目的とす
- 第三條 全村教育の目的を達する爲村是を左の如く定む
  - 一、敬神尊祖、敬神尊祖の念の向上を期す
  - 二、自治振興、本村共同の利益村民の福祉を増進し隣保團結し自治機關をして和親愛好の殿堂たらしむ
  - 三、教育の充實、教育の充實を圖り質實剛健勤儉力行の美風を涵成す
  - 四、産業の開發、産業の組織經營を合理化し益々其振興を期す
  - 五、保健衛生、衛生思想を普及し保健衛生の改善を期す

日高村各種團體長會々則

- 第一條 本會は日高村各種團體長會と稱す
- 第二條 本會は本村全村教育の中樞機關にして本村の實情を調査し各種團體の特質を發揮せしめつゝしかも之が連絡統制を圖り全村教育の目的並に村是を基礎として之が實施計畫を協定し其實現方法を講じ全村教育の目的達成を期するを以て目的とす
- 第三條 本會の事務所は日高村役場に之を置く
- 第四條 本會は各種團體長及其幹部の一部を以て組織す
- 第五條 本會に左の役員を置く
  - 會長 一名 副會長 一名
  - 評議員 若干名 幹事 若干名
- 第六條 會長は本村長、副會長は本村助役之に任す 評議員は會員中より之を囑託す 幹事は會員中若は會員外より會長之を囑託す
- 第七條 役員は本會を代表し會務を總理し會議の議長とな

副會長は會長を補佐し會長事故あるときは之を代理す  
 評議員は評議員會に出席し會長の諮問に應じ重要な案件を作成す  
 幹事は會長の指揮を受け會務を處理す  
 第八條 本會は目的達成のため左の會議を開く
 

- 一、評議員會 隨時 會長必要ある時之を召集す
- 二、例會 隔月一回 但し必要を生じたる時は隨時召集す

 第九條 本會に備ふる表簿左の如し
 

- 一、會則
- 二、會員名簿
- 三、役員名簿
- 四、會誌 (沿革誌)

 第十條 本會々則は例會の決議を経て變更することを得

日高村並鹿島臺村 視察記

濱野壽雄

小淵尋常高等小學校訓導  
 津久井よ立て、永い眠より醒めよとの警鐘は亂打されてゐる。我等はこの津久井に生を得、教職に携さはる身である。陛下の赤子として答へ奉るべき重大使命は我等の頭上にうづ高く積み重ねられて居る。我等は内省する時貧弱な經驗を以て、淺薄なる修養によつて立たんとし乳呑子の歩行其のものである。餘りにも微力である。せめては更生村を尋ねて心の糧を得微力を捧げ奉るのが我等の使命であるとの考より、經濟更生に名ある茨

城縣多賀郡日高村並に宮城縣志田郡鹿島臺村視察の爲二月五日夕刻田野倉校長坂本訓導兩氏と共に  
 出立し同八日早朝歸校す。この視察によつて得た事どもを記し大方の御指導と御援助とを乞ふ次第であります。

日高村

戸數約五百戸常磐線小木津驛を中心とし太平洋岸に沿へる農村で舊小木津村、田尻村の合併して成立せるものにして、現在は全村教育をモットーとし打つて一丸となり、十九の農家組合を設置し和氣羈々の裡に樂しき更生へと美ましい程團結しつゝ共存共榮へと進みつゝある理想郷である。  
 而し過去を省みる時此の村は幕政時代より黨争激しく近代に入つては政争化され、郡中最大の行政訴訟村となり心ある者ひそかに憂慮するの狀態に達するに至つた時、學校には現校長渡邊四郎先生の赴任となり「農民と共に泣き農民と共に笑つて勤勞する者のみが農村の眞の姿に觸れ得るのである。我こそ日高村民である」との信念の本に理解ある態度で農民と一致しやうとし、先づ以て此の基礎は學校内部の事にして村民の批難ならしむる事であるとの努力あり、加ふるに郵便局長大森繁信氏の「村の更生は教育によらねばならぬ、全村の再教育であるそれには學校を中心とし村の教育進展をはかるべきである」との理解ある援助實行より學校職員地位は高められ、現在に於ては、柴田訓導の言の如く「我等は教師であるが故に如何なる主張をなすも皆村民が承服する。實に教師たるの榮譽を感ず」と斯くの如く村民は理解して教職員の指導を甘受し得るに至つて居る。此處に重大なる秘訣が存して居る事と思はれる。更

に原動力たることは校長先生の家庭を解放しての全生活を通しての村民教育であり、我等の深く感ぜしめられた事である。特に大森氏の言に曰く「我が村はリズムである。經濟更生、全村教育、自治の確立の、三部面が一丸となる時、無色である。而し各分野に分れ、活動する時其處に各特色は發揮される」と申されたが其の通り貫くものは村を思ふの至誠そのものである。特に感じたる事どもを斷片的であるがあげると次の通りである。  
 1 土地：山林の三分の二は官有で、田畑の約六割は他村の所有であり、地主少く、小作階級を主とし立上るの氣力なく、自暴自棄的であつたが現在は大半を取戻したとの事：我等の環境に髣髴としてゐる。  
 2 全村教育はたてたのでなく、自然に形づくつて行つたとの事：力強さを感ず。  
 3 更生計畫：今迄の改善、充實、向上(増産計畫)これを主としたとの事：學ぶべきである。  
 4 農家組合に隣保共助の精神が強く共同作業のよく行はれること。  
 5 指導の根據たる指導要項の作製と之の利用による農家組合指導方法の巧さ。  
 6 更生の基本調査の重要さと、其の調査の巧であつたこと。

中心となりつゝある學校の行蹟  
 1 校長先生はじめ農業の智識は少いと事：村民に教へ、又教へられつゝ互助そのものであると、かくして教職員全部が耕作、養兔、養鶏、養豚と各別に研究精勵せられ、兒童も楽しく農村民としての希望を有して作業しつゝあると  
 2 この作業に當る先生の作業服(農夫そのまゝ)



よりして其の精神に感ぜしめられた。  
 3 農場一町歩(水田一反歩)：農家全般の經營を模範農家をつくるのを目標とすること。  
 4 兒童勤務も尋六兎、高女鶏、高男豚とし、高男女には各家庭で養兔をせしめ、しかも時間的配分の巧であること。  
 5 訓練の重點：常にうちの人の御手本たる事：綜合教育現存の美はしい生活である。  
 6 少年部の傳令奉仕：農家組合其他の集會の成績を向上せしむ。  
 7 少年消防組の竈検査：成績をあげつゝあり。  
 8 學校宅便：一村内相互の通信引受：經濟更生に參畫してやつて行くとの自覺のもとに有効に行はる。

9 學校模範組合：組合精神をつくるため設置され自治的に向上せり。  
 10 學習指導：朝は豫復習、放課後一時間の復習指導により成績の向上をはかりつゝある。  
 かく長所あり、特色あるこの更生氣分をよく表したものに農業教室(約六十坪の土間)青年學校(約五十坪疊敷)の校舎がある。この大部が職員兒童の作業の賜であり、其の上に青年學校の敷地、地ならし、大樹の根掘等皆職員兒童の勞作であると聞かされて感銘を一層強くした。

鹿島臺村

戸數千三百餘戸仙臺より東北本線により約一時間後に達する鹿島臺驛を中心とした農村で舊本間塚外五ヶ村の合併して成立せるものにして、此の村は品井沼に臨み、長雨毎に沼水の氾濫による害を受け、三年に一度の大凶作に遭遇し貧のどん底に喘ぎ土地の七割は他村民の所有に歸して、日に日

に低下するのみで明治四十二年頃の戸數は三百餘戸であつた。これを更生せしめ約倍數の七百八十戸たらしめた大恩人は全國的に有名なわらぢ村長鎌田三之助氏その人である。その信念は「かくせねば 陛下に申し譯がない」との赤誠一事である。眞に人を超越した生神様とは鎌田翁の事である。翁は本年七十五歳常に清潔なるつぎのある服をまとひ、草鞋をはいて外出される。而し村民に皆草鞋をはけと、強制するのではない。「自分が草鞋をはいて緒をしめる時の心持を持つて、常に心を引きしめて呉れ」とこの警鐘なのである。

翁は年貢米八百石も入り得る富豪に生を受け明治法律學校に學び三十二歳で縣會議員となり、代議士たる事二回、メキシコ移民視察に赴く事等ありしも皆名利的の爲にあらず。祖父の遺言による品井沼開拓と鹿島臺村更生の爲の努力であつた。村長たる事明治四十二年より二十九年此の間無報酬無旅費にして、誠意村の事に盡し、更に私財を興へて村民の奮起を促し、遂に年貢米七百石分の財を傾け使用して事業に精勵し、今もつて「私は何もしない、只 陛下のために申し譯ないと思つて過して來ただけだ、公人としては校長が一番知つてゐる」と仰せられて、私が一番心配したのは神社(十四)學校(五)部落財産の統一をはかつた事であるがこれも魂競べをしたまでの事だ」と申された。この村長さんと意を同じうして更生氣分を振興せしめた人として、佐藤昌之助校長先生がある。村長さんと共に鹿島臺振興の好一對の傑物である。特に感じたる事どもをあげると次の通りである。

鎌田村長さんの面影

1 村長さんは政治家で酒も好まれたとの事であるが、父の七日忌の折、靈前に呼ばれ母より「お前は父さんもなくつた、これから家の中心である。今までは父が居たから言はなかつたが、どうか自分の生きてる間は酒を飲まないで呉れ」との忠言があつた。氏はこれ以後は一滴すら口にしないと云ふ、曰く「母の許を受けぬうちは酒は飲めぬ」と今に於てもかく申されてゐる。

2 品井沼改修の進行し居る時、北上川改修工事主任としての白羽の矢を立てられ、知事より是非と、懇望された所、母は「三之助お前は四千圓の報酬に目がくらんだか、金がほしいか、それでは鎌田の家も終である。どうしても引受けたら、母は兩工事をすると双方半途で失敗になると思ふよつて、絶対承知出来ぬ」と堅固な決心の程を示されて品井沼改修の大成へと至らしめられた。

學村振興の指針  
 興村の策：村財政沿革は勿論、家庭改良策、公私經濟緊縮實行要項其他よるべき事を皆一葉の紙に納め、高一故郷の課の主要語句を欄外に記して奮起を促してある。

學校に於ける特殊施設  
 1 明治四十四年設置の鹿島臺兒童勤儉會

農繁休暇を利用し必ず肉體勞働をせしめて一部を學校に寄附せしめて居り、これが積つて、三千百十八圓餘を蓄積し、之により三回に學田九反歩を買求し今現金四百餘圓を貯蓄し現に昭和十一年にも百〇二圓を受入れて居る。

1 品井沼開墾

祖父(玄光氏)が六十四歳で歿せられやうとする時、子(三治氏)と孫(三之助氏)を呼んで品井沼開拓を遺命した。この品井沼は志田、黒川、宮城三郡一町四ヶ村に跨り、東西五十餘町南北三十五町餘總面積約一千七百八十九町餘を有して居る大沼で黒川郡全部の悪水之に注ぎ、外一町四ヶ村の排水は皆之に入り一朝豪雨若くは霖雨により洪水となり被害を受くる事多く、この沼水を仙臺灣に注ぐ墜道をつくつて沼水を干上らしめるのがこの仕事である。現村長も二十七歳の時よりこれに奔走し進めて(三郡五ヶ町村)品井沼組合をつくり、内務省より五十萬圓借入れ、事業の進行をはかり、大丈夫と見透しをつけて、更にメキシコ移民の策をたんとメキシコに赴き努力中、水害による堤防の決潰となり、事業も中止されんとした危機にひんし龜井知事よりの招電により歸國奔し、更に内務省より四十萬圓を借入れ事業を繼續して居るうちに又水害を被り縣會の反對まであつて、又危機にひんし、時に恐れ多くも 東宮殿下(大正天皇)の奥羽御巡幸あり、畏くも御耳に達し品井沼附近に一分間の御召列車の御停車を遊ばされ、「有効なるこの工事は中止することなく完成せしめよ」との優詔を賜はり滞りなく進行し明治四十四年に完成し、田八百町歩、畑地四百町歩計千二百町歩を得、更に第二期工事(昭和十四年完成豫定)により六百町歩の田畑を得んと努めつゝあり。

2 開通式の美談

賢母の教「三之助や今日の喜びはお前一人ので

2 奉仕車二臺を所有し通學路の馬糞を集め翌朝之を學校に奉仕車を利用して、運搬し堆肥小屋に積み、堆肥つくりの本として居り、別に奉仕デパートを設けて公共の事に奉仕してゐる。  
 3 落穂拾ひ：尋五以上に作業せしめ、今年も二日に二石二斗を拾ひ、現に三百圓を貯蓄し赤誠こめて、鎌田村長殿の銅像建設資金にせんと勵みつゝあると聞いて一層感をつよくした。  
 4 一坪農業：尋五以上各家庭に：青年會と共に品評會

5 掃除學習：時間四十五分：掃除の仕方を教へる  
 ；優良組に優良バケツの授與  
 6 清潔デー(毎月一日二日)奉安殿はじめ校長以下皆清掃に従事し家にかへつても必ず清掃に従事する。  
 7 修繕デー(毎月第一、三月曜)各個人皆鐵ついでを所持し居りて各自修繕に従事する。

以上の如く、身を以て範を示せる鎌田村長殿に率ゐられて居る鹿島臺村は現今二十九萬圓の村基本財産を所有し村有林には總て鬱蒼たる樹木を繁茂せしめ、輝く興村の葉は各個に配布せられ、村政一般並に村民の處すべき道はこの一枚の葉に納められ戮力協心村は日と共に榮えを増しつゝある皇國の彌榮其のまゝの樂園となりつゝあるのである。

我等はかく目前に國民としての本分の華を見聞し、微力ながらも奮起を促がさる、先づ精神振興であり、自給自足、公共奉仕、廢物利用努力の分配無駄の排除等々、めざす所は隣保互助共存共榮の模範を教育に示す、これが要事である、至誠一貫盡忠報國、至誠一貫盡忠報國。

はないよ」と仰せられて齡八十を越えた母の心盡しにより、光榮ある通水式に祖父、親父の御位牌を背追ふて臨み、共に共に喜びにひたられたとの御事實にゆかしき極である。  
 この折の賢母の和歌に  
 永らへて八十路の坂の峠より  
 干したる沼を見るぞ嬉しき  
 これよりしても其の高潔な心根が偲ばれ我知らず自然と頭をたれ眼に涙した。

3 村長として村を思ふ至情

(1) 就任と同時に髪は散髪に鬚は剃り、靴もすて草鞋となり、堅い決心を以て村民に自覺を促し、「食ひ物は麥の飯、茶つ葉漬これで澤山である」と禁酒禁煙を以て立ち、現今持續し率先今に至るも齡七十五歳となるも、公共奉仕の念に燃え、成瀬川架橋二百間の成瀬橋並に縣道の清掃を未明より二時間奉仕しつゝあると聞いて我等は汗顔の至であつた。

(2) 就任當時置はしくも村民は皆「俺の子供である」と己の貸金を皆與へ上に正金米穀倉庫二棟も村民に與へて奮起を促がした。しかし、村長とし第一期四ヶ年を過ぎ村會は千二百圓の報酬を議決したるに、「俺は仕事をやるために村長になつたのだ仕事さへ行はせて頂けばよい」と如何にしても受けず、郡長に頼んでも遂に受けなかつた。更に品井沼完成報酬とし八百圓を贈呈すれば大釣鐘を製作して村に與へ、後更に二百圓の報酬を差出すや山形縣よりの移民に掘抜井戸を造つて與へ、一錢たりとも身に受けず、上に部落に田四町歩を寄附したと聞いて清廉さ崇高さに敬服した



生徒・兒童作品

俳句

紀元節

青年學校ノ部

建國の日丸なびく良き日かな
旗出して静が蘆屋や紀元節
雪晴れて富士の見ゆるや紀元節
拜殿に小鳥の遊ぶ紀元節
春の空静かに明ける紀元節
旗出して糸つむぐなり紀元節
式場に梅一鉢や紀元節

小學校ノ部

紀元節樂隊町をにぎはす
紀元節のぞくよ青い春の空
紀元節天地にひびく君が代の歌
紀元節建國祭へ行きました
紀元節國旗ひらく岡の上
紀元節青空高く日の御旗
紀元節三千年の日本國
紀元節港の中の國旗かな
大御代のしづけさけふの紀元節
日の本の御稜威いやます紀元節
さかへゆく日本の國のうまれた日
紀元節どこにもまけず三千年

磯子青學 本一 横尾進 午

高津青學 本二 瀧村鐵次

市場 尋四 政所節子
市場 尋四 岡田正彦
北方 尋四 八木美惠子
市場 尋四 折藤茂代
市場 尋四 石川清
市場 尋四 藤江球生
市場 尋四 岩澤昇
市場 尋五 井原清
市場 尋六 橋本節子
市場 尋三 橋本節子
市場 尋三 松原貞一

紀元節かどべにほふ梅の花
紀元節戸ごとにいはふ日のみ旗
日本に生れたよろこび紀元節
うたひつゝしみん／＼思ふ紀元節
元氣よし建國行進長々と
尊しや建國祭の旗の波
君が代も天地に響け紀元節
日の本に生れてうれし紀元節
梅の花香もゆかし紀元節
梅の木に掲げた御旗や紀元節
日章旗ひとときは高し紀元節
うぐひすもことほぐ今日の紀元節
谷間にも國旗を立て、紀元節
紀元節神武の御代を思ひけり
梅の花匂ひも高し紀元節
空見れば雲一つない紀元節
紀元節田家の雪はまだとけぬ
床の間に梅をさしたる紀元節
式場に梅の香高し紀元節

紀元節下る小舟や日章旗
幼な子の背に振る旗や紀元節
君が代の聲揃ふなり紀元節
旗立てし沖の小船や紀元節
建國の旗ひるがへる日本晴
梅咲いてはじめての晴紀元節
青空に飛行機光る紀元節
鶯の初音きゝたり紀元節
梅かほる日の丸高し紀元節
大空に君が代のこゑ紀元節
紀元節富士もほゝえむ日本晴
梅咲いて春を來るらし紀元節

幸町 尋五 原照子
旭町 尋五 石井明枝
旭町 尋五 本田忠雄
旭町 尋五 栗原政雄
旭町 尋五 熊谷源
平塚第三 尋四 高部ミサ江
平塚第二 尋五 岡本紘子
稲田第二 高一 小池憲一
高津高二 大貫久男
高津高二 佐保田俊夫
高津高二 上田正子
戸塚 尋三 檜田宜夫
瀬谷 尋五 大熊茂雄
鎌倉第一 尋五 澁谷茂雄
豊田 尋五 實方博
腰越 尋六 池田甲子太郎
戸塚 尋六 龜井良枝
戸塚 高一 森井 馨
寒川 尋五 廣田玉江
澁谷 高二 井上秀雄
座間 高二 小俣功
大野第二 尋五 笹尾宏
大磯 尋五 山本博造
相模川 高二 清田清
依知 尋六 笹生正博
足柄 尋三 中山榮郎
足柄 尋六 奥津晋一
宮城野 高二 松本與作
青野原 高二 井上常夫

雛祭

青年學校ノ部

雛壇のそばに居眠る三毛の猫
雛を出す納戸の壁の冷やかさ
ひなまつり窓ぎはに咲く桃の花
ひなまつり赤いもうせん桃の花
紙雛でまぶしき家の雛祭
おひな様毎晩何の夢見るか
ひなだんのわきにかされる道成寺
雛祭り供へとりどり兒等集ふ
ひなだんのぼんぼりうるむ夜の雨
妹を上座にすえてひな祭
妹のすや／＼寝入る雛の宵
ひな祭病の父の笑顔かな
子供達をなへたあられそつと食べ
ひなだんにもしびゆる春の宵
灯に映えて活けるが如し雛の顔
ひなまつりたいこやふえがなつてるやう
ひなまつり死んだ妹を思ひ出す
ひな人形皆此方を向きにけり
雛よりもかしこまつてる幼い子
餅草をつんでうれし雛祭
妹にせがまれて雛を買ひに行く
雛祭桃のかほりや春の風
古雛もまたなつかしき雛祭
初春に飾れる雛や桃の花
雛祭り一つしよに祝ふ誕生日
初節供ひなの前にて子をあやし
のどかさや鶯のなくひな祭
まぼんぼり灯をともしてや夢の國

小學校ノ部

磯子青學 本一 森津巳治
高津青學 本五 大島重藏
市場 尋四 政所節子
市場 尋四 岡田正彦
北方 尋四 八木美惠子
市場 尋四 折藤茂代
市場 尋四 石川清
市場 尋四 藤江球生
市場 尋四 岩澤昇
市場 尋五 井原清
市場 尋六 橋本節子
市場 尋三 橋本節子
市場 尋三 松原貞一

ひなまつり近づく頃はうれしいな
廊下から小犬のぞくひな祭
雛祭り桃のつぼみも笑ひ出し
昔をば思ひかへさすひなまつり
ゆめにまでならべて見たりお雛様
ひ毛氈ぼんぼりゆらぐ雛祭
もゝ咲きて十五度目の雛祭り
家の中きれいなつた雛祭
雛人形せまい座敷にかざりけり
妹が官女をまねる雛祭
年を越し五人ばやしの笛もなし
初節句近所の人をまねきけり
叱られて母の背にねる雛の主
妹の喜ぶ顔やひなまつり
叔母の雛まだ二つ三つ残りけり
雛祭花も活けたる廣間かな
牌運ぶ子の片言や雛祭
姉さんの破れ雛までかざりけり
ひなまつり屋根では雀のだりり様
ぼんぼりをともせば赤し雛の顔
お雛様白酒のかめかゝえてる
ひな段の前で笑顔の姉妹
ぼんぼりに灯ともし暮れる雛祭
桃散りて女雛の袖に止りけり
片袖のとれた雛をもかざりけり
ぼんぼりにおだいのり影ゆれてゐる
雛棚にねどこをかへてしきにけり
窓あけて涼しき雛の腫かな
おひな様のぞいて桃の笑顔かな
おひな様かざればぼんぼりの部屋の中
桃の香や母もまじつて雛の宵

豊田 尋三 鈴木クニヨ
戸塚 尋四 北村恒雄
瀬谷 尋六 榎山キムエ
鎌倉第一 尋六 和田節子
鎌倉第一 尋六 岩水みどり
腰越 尋六 篠塚美津子
豊田 高一 井上フミ子
小坂 高一 白井 巖
小坂 高一 小泉信雄
戸塚 高一 高橋辰廣
戸塚 高二 金子通雄
寒川 尋五 雪本フサ
澁谷 尋五 杉崎 旭
澁谷 高二 保田三郎
座間 高二 江成 章
座間 高二 小俣 功
新磯 尋五 中村秀雄
大磯 尋五 森元一吉
成瀬 尋六 高井謙一
成瀬 尋六 瀬戸義治
大野第二 尋六 大津久子
相模川 高二 石井千代
大磯 高二 加藤松子
依知 高二 藤野忠作
足柄 尋四 田中昭平
湯本 高二 内田榮一
宮城野 高二 勝田武子
高津 尋四 杉浦政雄
高津 高一 原 かよ子





和 歌

紀 元 節

中等學校ノ部

青年學校ノ部

日本の大和の國の國ひらきひらきし今日を仰ぎつるかな
山里の賤家なれどもけふの日は紀元節なりみ旗たちけり
尊とけき紀元の節や山里の家みな國旗ひらめきてをり
春早き南の丘へ蕪屋根の軒にひらめく日の丸の旗
紀元節誰の心もかわらねど千代萬代に榮えますよう
旗立てゝ賤がまどぬもくにたちのよき日祝はむいざ妹等よ
晴れ渡るくにたちの日よるこびて朝すがしき雪の富士か嶺
高千穂の雲吹き拂ふ天津風みいづ輝く今日のたうとさ

小學校ノ部

建國の昔しのびて門先の日の丸の旗をつと見上げる
校庭の旗竿高く日の丸の國旗ひらめく紀元節の朝
父ちやんが瑞寶章をいたゞいたお祝もまじる今日紀元節
建國の今日を壽ほぐ日の本に光り輝く我が日の丸の旗
帝國の千代定りし今日の日を喜び祝ふ大和撫子
來る船も出でゆく船も日の丸の御旗かゝげて勇しき朝
比類なき我が日の本のいしすへを御建てたまひし帝たゝへん

浅野綜合 四 増岡 達次

生田青學 研一 關 延

高津青學 本二 瀧村 鉄次

向丘青學 本二 杉田久美子

小坂青學 本三 小泉 キク

上秦野青學 本五 牧 石 清

市 場 尋六 鷺見 千里

市 場 尋六 鷺見 千里

市 場 尋六 鷺見 千里

市 場 尋六 鷺見 千里

市 場 尋六 鷺見 千里

市 場 尋六 鷺見 千里

市 場 尋六 鷺見 千里

市 場 尋六 鷺見 千里

市 場 尋六 鷺見 千里



童 謡

紀 元 節

小學校ノ部

北 方 尋二 町 田 工

今日はお國がうまれた日
ぼくはうれしくてたまらない
すつと／＼向ふまで
日の丸の旗がとつてもきれいにうごいてる
國中國旗をたてゝお祝ひするの
紀元節はほんとにゆかいだ

市 田 尋二 並木 正夫

今日は僕等の紀元節
高いだいのてつべんに
日本の旗がなびいてる
つめたい風にあてられて
ひらひらひらひら
うごいてる

市 田 尋三 小川 正

朝早く
岡に上つた
町に一つばい
旗がひら／＼
みんなうれしさう
日が落ちて
岡に上つた

日本の津々浦々の果にまで祝ひことほぐ紀元節かな
式場に満ちて流るゝ梅が香や今日はめでたき國の誕生
港江のあけぼのほふ浮城にみ旗ひらめく紀元節かな
弟が建國祭とは何と聞く今朝のめでたき萬歳の聲
尊しや樞原山の有様を心にゑがく式場の中
樞原の宮の柱の動きなく日の本の國はさだまりにけり
紀元節二千餘載のそのかみをしのびみてこそよき日なりけり
紀元節軒端に立てた日の丸が風にひら／＼ゆれてをります
紀元節今日のよき日ともろ共に聲はりあげて歌ふたのしさ
樞原の堅きいしすえ年ふりて神武のみかど仰ぐも尊し
高千穂と歌ふ聲にも力あり國柱立ちし今日の佳き日に
君が代の礎かたし國柱千代に八千代にゆるぎなき代ぞ
君が代の梅の香匂ふ紀元節囀る鳥も千代をことほぐ
聲かぎり雲にそびゆる高千穂の御歌うたひて祝ふうれしさ
紀元節式終へかへる友達のほかまのすそにぬかるみの泥
大空に高くはためく日のみ旗あほく僕等は日本男子
御即位の皇祖の御姿偲びつゝ朝日を拜みぬ紀元節の朝
建國の歴史は長しあきつしま守りてたゝん日本丈夫
紀元節今日は佳き日をつきりと空にうき出す富士の山
どの家も日の丸立てゝ祝ひけり尊し今日の紀元節かな
樞原の宮居はるかにおろがみて今日の佳き日を祝ひまつらん
紀元節裏のお山の鳥の聲紅い椿の花も咲くなり
紀元節式やりをれば講堂の外で雀のチヨと鳴くなり
晴々と白金岡の日のみ旗高くひらめく紀元節かな
くりかへし建國の昔徳ぶかな春風そよぐ荒磯の上
かしはらの宮をはるかに思ふかな國建てられし今日の祝日
神武より輝く光この歴史きづき上げたるいにしへの今日
樞原の宮しづまりて守りませ榮行く御代の千代に八千代に

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

田 戸 尋六 角田美登里

赤い夕日に
みんなたのしさう
今日はうれしい
紀元節
どこの家でも
日の丸が
ひら／＼と
ひるがへる
近くの岡に上つたら
美しい日の丸もやうで
うづまつた

幸 町 尋二 小林チヅル

今日はお國がうまれた日
お國の出来たりつばな日
めでたい／＼おいはひ日
さあさくり出せ旗行列
日の丸もつて ばんざい／＼
今日はめでたいきげんせつ
日本の國のたんぜう日
日本中がおめでたい
おとなも子どもうれしさう
みんなそろつて ばんざい／＼

中 原 尋三 橋 本 一

(一) 朝ははれ
ひがしの空から
につこりと笑つて
出て来た太陽が
日本國を見おろすやうに



建國の昔しのびて國民が喜び祝ふ今日のよき日を  
建國祭町の通りを賑はしくピラをまきつゝ樂隊の行く  
紀元節のぼる朝日をおがみつゝ國の榮へいのるわれかな  
日の本の榮えゆく世を祈るなり國の御柱たちしこの日に  
日の本の礎かたく幾千歳なほ榮あれ千代に八千代に  
比類なき我が日の本の建ちし日を喜び祝へ老も若きも  
梅ヶ香のほへる如くうるはしき帝の勳今日ぞたへん

雜 祭

中等學校ノ部

ひな祭る頃ともなればうれしけれもえ出づる草咲きいづる花

青年學校ノ部

冬去りて桃咲く春のひなまつりみしらぬまにもいつか來にけり  
花の咲くやよいとなれりひなまつりこの山里にもをとづれにけり  
みどり子を負ふて節句に來る姉雛のほこりを拂ひ居りけり  
雛段のぼんぼりの火もうす明く今日も暮れゆく春の一日  
ひな様をかざりてともすみあかしのゆらぎにと見し亡妹のかけ  
初孫のかざるひなをば手に持ちて祖母は涙で今日を喜ぶ

小學校ノ部

ぼんぼりにあかりともせばひなだんの居並ぶ雛も我にほへえむ  
はなやかに飾られたれど雛壇の五人ばやしの笛ふき笛なし  
雛壇の右近の橋妹はお密柑と思ひ毎日ささる  
ぼんぼりにばつと灯火入れれば嬉し／＼とはしやぐ幼な子  
雛祭すらりとならんだおひなさまひし餅もある白酒もある  
妹の形見となりし内裏雛ぼんぼりの灯にさびしさうなり  
かあ様にお手数かけて雛壇にやうやく飾る心たのしき  
ひなだんの前にしたてばひな様のわれをみつむる瞳やさしも

依 知 尋五 島崎 照子	足 柄 高一 植 松 澄子	湯 本 高一 開 澤 セン	宮 城 野 高二 勝 俣 勝子	松 田 高二 府 川 清子	高 二 矢 島 千代子	淺野綜合 四 中 川 光司	生田青學 研一 關 延	高津青學 本五 大 島 重藏	向 丘 青學 本二 杉 田 久美子	小坂青學 本三 小 泉 キク	上 泰 野 青學 本五 牧 石 清	北 方 尋六 小 泉 千鶴子	市 場 尋六 鷲 見 千里	北 方 尋六 同	北 方 尋六 石 渡 初枝	北 方 尋六 山 内 明	北 方 尋六 加 藤 靜江	北 方 尋六 岩 澤 文子	田 戸 校 尋五 菱 田 玲子
--------------	---------------	---------------	-----------------	---------------	-------------	---------------	-------------	----------------	-------------------	----------------	-------------------	----------------	---------------	----------	---------------	--------------	---------------	---------------	-----------------

- (一) けふは紀元節 日本國がうまれた日 ことりは たのしくさへづるよ
  - (二) 長い通りにどの家も ひら／＼と かぜにふかれてういてゐる 日本國のひのみはた 學校は十字にくんだ 日のみはた
  - (三) きみがよの がつしようがしづかに きこえる
  - (四) こうどうから 又もやきこえる
  - (五) おごそかに 校長先生のおよみになる おちよくご 水をうつたやうに おごそかに
- 旭 町 尋三 川 口 チヅ子
- (一) 紀元節はおめでたい 四大節の一つにて 神武天皇が御位の つかせ給ふたよき日なり
  - (二) 青空高く日の丸の旗 忠君愛國の長い旗 青年團のラツパ勇しく 長い行列通り行く

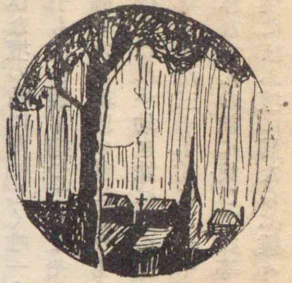
ひなだんにいと美しくうち並ぶも、の花さくひなまつりかな  
桃の花金らんとすのおめしもの今日は一きは美しくはゆ  
桃のはな花屋の窓に見えそめたのしき雛の祭ちかしも  
雛だんにわたしのつくつたお人形をいばん先にかざりけるかな  
雪とけてほのかにほふ梅が香に雛の祭もはや近づけり  
雛祭赤いぼんぼりかざつたらお花の影がゆら／＼ゆれた  
雛祭赤いぼんぼりたてたらばお雛様まで明るく見えた  
雛祭り幼き雛の持主は母の乳房にすがり居るなり  
野ひばりの聲のひびきに桃の花さして祝へや今日の節供を  
ひな壇の赤いぼんぼり灯がともりぼんぼりの頬に夢の姫びな  
ひな祭うすも、色のぼんぼりに光りゆらめき夜はふけにけり  
ひなだんに今さかりぞと桃の花ぼんぼりの灯のどやかにゆる  
ひなまつり老いたる母も若々ながめ見るかな我もろとも  
ぼんぼりの灯にきら／＼とお内裏の冠光る三月の宵

ひな段の前にすわりてしみる／＼と幼き頃を思ひつゞけり  
ひな段にひなを並べて妹の笑顔うれしくわれはほへゑむ  
妹を風呂にはいれと呼びに行き自分も見てる雛祭かな  
雛壇の眞紅な布にうつゝてる電氣の光の美しきかな  
妹はクレオンなどを取りだして無心にひなをうつして居りけり  
妹と雛買ひに行く我もまた男ながらも嬉しき思ひ  
雛段のそばに立ちより幼妹はこれあたいのよと指さしにけり  
ひな壇の前にたのしく唯一人すはつて見ればひなはほへゑむ  
子も揃ひ雛も揃つてなごやかに白酒祝ふ桃の小春日  
飾りたる雛段の前に祖父も來て目を細目つゝ眺め居るなり  
待ち切れず幼き妹は空つぼの重箱さげて遊び居るなり  
我もまた三十年前にこのやうに雛祭りせしがと母は語れり  
ひなだんの前に集ひて妹等のあれやこれやと指をさしつゝ  
桃にほふ壇に居ならぶ雛々も生命あるらしぼんぼりの下

田 戸 尋五 水野キヨ子	田 戸 尋六 島 耀子	幸 町 尋五 長 田 滿枝	幸 町 尋五 山 根 三代子	川崎高等 高二 鈴木美代子	平塚第三 尋四 伊 東 輝子	平塚第三 尋四 高 橋 英	稲田第二 高一 小 塚 日出子	高 津 高二 姜 八 岩	高 津 高二 相 原 はつ	戸 塚 尋三 森 久保 裕	鎌倉第一 尋六 富 岡 澄	鎌倉第一 尋六 國 島 洋子	腰 越 尋六 梶 田 喜美子	戸 塚 高一 平 田 みつ子	戸 塚 高一 芦 澤 富美江	瀬 谷 高二 平 本 實	寒 川 尋五 藤 井 テイ	滋 谷 尋六 高 橋 義雄	滋 谷 高一 横 山 正	座 間 高二 江 成 章	大 磯 尋五 近 藤 澄子	大野第二 高二 今 村 喜美子	足 柄 高一 中 島 マリ子	足 柄 高一 府 川 トシエ	宮 城 野 高二 安 藤 孝子	青野原 高二 井 上 朗	高 二 齋 藤 靜子
--------------	-------------	---------------	----------------	---------------	----------------	---------------	-----------------	--------------	---------------	---------------	---------------	----------------	----------------	----------------	----------------	--------------	---------------	---------------	--------------	--------------	---------------	-----------------	----------------	----------------	-----------------	--------------	------------

- 旭 町 尋三 秦 英子
- うれしい／＼紀元節 國の始りめでたいな 朝から行列にぎやかに 旗とちようちん並んでる
- 平塚第三 尋四 福 岡 テル
- お日様びか／＼ 日の丸ひら／＼ 今日のはうれしい紀元節 みんなで歌はふ君が代は 千代に八千代にさざれ石の 巖となりて苔のむすまで
- 高 津 高二 姜 八 岩
- (一) 金鶏の光眩くも 吹くや春風和やかに 街のいらかを野の家を
  - (二) 皇統連綿三千年 我がはらからは 祝ふなり あゝ紀元節佳き日かな
- 鎌倉第一 尋三 磯 部 滋
- 紀元節だ 紀元節だ 氣持のよい 紀元節。 日本が生れてから 二千五百九十七年も たつた たつた。
- 紀元節だ 紀元節だ 旗がひらめく 紀元節 負けた事ない 紀元節 日本國 強い國。





# チエツコスロバキヤのソコール

横濱市浦島小學校 平戸喜太郎

編輯部の方から渡歐中のことを何か書くやうにとお話。健康教育や大衆體育や團體訓練の強調されてゐる現今にはソコール運動のことがよからうと意譯したものがこれである。昨夏八月二十日にソコールの學校を參觀した思ひ出にもとを走らせた。渡歐について皆様から蒙つた御懇情を感謝しつゝ。

## 第一 ソコール運動について

- (1) ソコールを歴史的にみて
  - (2) ソコールの概念
- 第二 ソコールの體育  
第三 ソコールの組織  
第四 結 論

### 第一 ソコール運動について

#### (1) ソコールを歴史的にみて

チエツコスロバキヤ體育の起原は十四五世紀頃であるが、その體育は意識的に道德的方面をも育成するといふことには注意されてゐなかつた。體育の道德的方面に着眼して之に注意したのは十八世紀のコメニウスである。同氏は競技の教育的價值と影響及び特に體育の兒童精神に及ぼす効果を指示した。十七、八世紀を通じてチエツコスロバキヤの政治的服従時代には特記すべきことはなかつたが、十九世紀になつて始めて二百年前、コメニウスによつて考へられた體育の道德的方面を強調すると共に、個人及び全國民に對する體育價値を認識した。

ソコールといふ名稱はこの頃まだなかつたが、體育協會結成の動機は一八四八年學生の體育協會がボエミヤに出來たことが大なる原因となつた。一八六〇年代に戰敗によつてオーストリアには歴史的の轉回が

起つた。十月二十日にオーストリアの憲法が出來て、オーストリアハンガリー帝國の非獨逸民族の壓迫な專制的な終結をつけたのである。

このオーストリアの政策の突然な變化によつてチエツコスロバキヤの國民は久しく考へてゐた政治的慾望をみたし、民族の自由に對する熱叫の運動をはじめたり、國民の權利の自覺が生れて來たのである。

かういふ際にソコール運動が生れて來た。最初一八六一年には獨逸人とチエツコ人の獨立した體育協會を設けることを獨逸人が發言したが、それは行はれなかつた。従つてチエツコ人側には反對が多くてチエツコ人だけで協會を設立しようとする機運が見えた。これが後にソコール協會といふ名稱を與へるやうになつた。

この協會は一八六二年一月二十七日に批准されて、ミロスラブ、チルス博士がこの運動の先端に立つた會長にはヒフネルが選ばれチルスが副會長になつた。實際の訓練は三月五日から開始された。その人員は七十五名、ソコールといふ名稱は一八六四年に至つて初め名付けられた。それは國家的英雄をソコール即ち鷹とよんでゐるユーゴスラビヤ人の傳説であり叙事詩から引用したのである。

ブラーグに於けるソコール團體の建設は地方に於ても非常な反響をよび起した。同年ボヘミヤ及びモラビヤに於ける街々からも参加したのであつた。

このブラーグのソコール團體は適當な本部を見付けることが出來なくて非常にあやぶまれた時にヒフネルが自費を以て、ブラーグに運動場が設けてある家を建て、ソコールに貸した。

ヒフネル自身はソコールの發展を充分に樂しみ得ないで一八六五年十一月十五日に病死した。ヒフネルは主としてソコール協會の經濟的安定の確保に努力してゐた時、チルスは實際上の訓練と組織に努力してゐた。チルスは一八六八年に體育要諦といふ書物を著した。一八六三年にはムジル博士と共力して少年のための體育會を、一八六九年にはブラーグ婦女のための體育會を設けた。一八七一年のはじめにチルスが主幹になつて雑誌ソコールを發刊した。その第一巻の主要論説は我が事業と主張及び目的であつた。そこにはソコールの概念の根柢が示されてゐる。

一八八一年にチルスはソコール運動設立二十周年記念として大祝祭の準備をした。之は六月十八日に行はれて第一回全ソコール祝祭として知られてゐる。大行列をした大集會ソコール運動にとつては大成功であつた。従つて全國民からチルス博士は熱狂的な感謝の表示をうけた。

一八八〇年にチルスは工藝專門學校彫塑藝術の講師に任命され、その後ブラーグ大學の美術史の講師に任命された。これらの仕事はチルスにとつては重荷過ぎた。一八八四年六月一日にブラーグソコール協會を指導することや雑誌の主幹もやめた。彼はスイスのチオールに去つた。ペアルプス峽谷のエツツに滞在するため一八八四年八月廿日散步に出たまゝ歸つて來なかつた。切斷された身體が、近づき難き場所にある深淵の中につけられた。その死體はまづエツツで埋葬、一八八四年十一月九日にブラーグのヒフネ

瀬谷 尋三 原田 光惠

今日は何れしいたん生日

日本の國のたん生日

御門の前の日の御旗

風にハタ／＼ゆれてゐる

小鳥の聲もにぎやかに

今日のはうれしいたん生日

今日は何れしいたん生日

日本の國のたん生日

はれたみ空を飛行機が

音いさましくとんで行く

さかえよ我等の日本よ

小坂 尋六 上野 清司

日本人なら誰も皆

今日のはうれしいたん生日

とほつ皇祖の大みわざ

かしこき紀念の紀元節

舟も車も何もかも

輝く日の丸ひるがへし

日本國中どこまでも

喜び祝ふ大みのり

世界中に二つない

貴い國に生れきた

我等の幸は如何ならむ

いざやたへんこの榮を

新磯 尋三 山口トシ子

けふはめでたい

紀元節

朝日にかゞやく  
日の丸の旗に  
敬禮する

寒川 尋五 杉崎 良之

朝日になびく日のみ旗

我等も交じる紀元節

みんななかよく手を取りて

たんぼの道を急ぎ行く

旗行列の勇ましさを

行手に見える寒川社

お祓ひ受けて先生と

一緒に参拜すませたり

かへる途中の家々の

門にひらめく日章旗

大磯 尋三 田崎 明

今日は何れしい紀元節

朝門口へ國旗出す

ひらひらと朝風になびく國旗

僕の心はおどり立つ

ごはんをたべてつくはいて

友と仲よく學校ゆき

きゆう／＼とくつがなる

どこの家にも日の丸の旗

僕の心はいさみ立つ

そのうち式がはじまれば

みんなきれいな着物きて

にこにこ顔で式のうた

ピアノの音とこゑあはせ

こうどうの中は萬萬さい。



ルと同一の場所に埋葬されたのである。  
この年支部の結成が出来て、バラ／＼になつてゐたソコルを各部分的に統一した。一つはエルベ河畔にあるコリンの地にチルス部、ブラーグに本部と一緒に中央ボヘミア部の二が出来た。  
一八八九年三月廿四日全部包擁してチエツコソコル團體が出来た。一八八九年にはモラビヤ・シレジヤソコル團體の設立をみた。一八九六年にこの二つが統一されてチエツコソコルになつた。一九〇二年にオーストリアの全チエツコソコル團體を含んだ所の統一されたチエツコソコル團體になつた。

一八八九年にチエツコソコル聯盟はフランス訪問をした。そしてパリに於ける國際的競技に於て好成績をあげた。一八九一年に第二回祝祭記念をブラーグで擧行した。大行進によつて大宣傳をしたのである。

一八九五年第三回の祝祭大行進を行つた。この時初めてソコルの女學生も參加した。女學生達の規則的訓練は一八八四年にはじまつてやつてゐたのである。

一八九五年にはチエツコソコル團體の第一回總會が九月二十八日に開かれた。そこで所謂聖バクラーフ決議案を提出した。この決議案は初めてソコル運動に於ける女子の教育的活動及び訓練の問題をも研究された。

一八九七年にはこの團體は機關紙ソコルを發刊し、大戦後國際體育聯盟の前身たるヨーロッパ體育聯合協會に加入した。一九〇一年に開かれた第四回記念祭はソコル運動の顯著なる擴大を示した。何故なれば一萬一千の正服の男子が參加し、六千七百の男子、九千九百のソコル未婚女性、八六七名の婦人達が參加したのである。一九〇六年にはモンテネグロ等への記念すべき訪問をした。一九〇七年には第五回記念祭を行ひ、同年にはスラヴソコル協會聯盟が發會され、一九〇八年に批准された。

一九〇七年には國際體育競技が行はれたので初めて參加するや直に優勝した。

一九一〇年にはチエツコソコルはベルグラーブ等に大旅行を企てた。

一九一二年には最も盛なる第六回の記念祭がブラーグで行はれた。この體育行進には一萬一千餘の男子、一萬を越える未婚女子、五五八名の婦人が參加、二萬餘の正服の團員が市内行進をした。

ソコル運動の發展の徑路をグラフにしてみると、

紀元年數	團體數	團員數
一八六二年	九	二六五
一八六五年	二〇	一、九四九
一八七一年	一〇六	一〇、四四八
一八七七年	一七一	一九、八一七
一八九四年	三五二	三六、〇四二

大 磯 尋 四 逸 見 知 子  
今日はほがらかな  
紀元節だ  
外へ出れば日の丸の下で  
子供達がたのしさに  
あそんで居る。  
あちらこちらに  
小鳥のかはい、  
音楽が聞えて来る  
こゝにもあそこにも  
日の丸の旗がひらひら

大野第二 尋 四 柏 木 左 一  
(一) 目出たい／＼紀元節  
神武のみかどが御位に  
おつきになつたお目出たい  
今日をみんなて祝ひませう  
(二) 國旗はひら／＼ひるがへり  
お日様すん／＼上られる  
今日のおよい日を祝ひませう  
今日は尊い紀元節

(三) わるものどもを平けて  
この日本をよい國に  
して下さつたありがたい  
神武のみかどはありがたい  
(四) 雲にそびゆるたかちほの  
うたうたつた僕たちは  
金のとびをも思ひだす  
うれし／＼紀元節

依 知 尋 二 倉 田 昭 治  
(一) ウレシイナ  
日本ノオ國ガ  
生レタ日  
ミンナソロツテ  
イハヒマセウ  
(二) メデタイナ  
日本ノ國旗ダ  
日ノ丸ダ  
ミンナ元氣デ  
イハヒマセウ  
青野原 尋 六 尾 崎 ウ メ  
朝風が私の頬をなでた  
みんなうれしさに  
學校へいそぐ  
あ 日の丸が  
高い空にひるがへつてゐる  
みんなの元氣な  
聲も聞える  
今日は紀元節  
誰の顔も明るい

大戦までにはソコルの成長は正常であつたが、而し大戦によつてソコルの地位が自然衰へたけれど、試練時代に發揮された彼等の力を戦争によつても壓迫され坐折することはなかつた。ソコルは國內に於ては因習に對して抵抗する精力的な分子であつたのみならず、戦線に於ける先頭に於てもさうであつた。ソコル精神に育てられた人々は氣持に於てはスラブ民族的でフランスとの聯合國を愛好した。チルスを理想としてソコルの組織と精神を模して、チエツコソコルバキヤ軍隊を編成したが、勇敢なる戦績によつて全世界の賞讃を勝ち得て後年聯合國によつてチエツコソコル族獨立國家の認可に對して大に貢獻する所となつた。この獨立國家の建設によつて國民三百年の隸屬は終りをつけてチルスの夢は達せられたのである。何故なればチルスは國家防備に資するだけのことをソコルの任務の最も重要なものと考へてゐたからである。一九一八年十月二十八日に革命が起つてチエツコソコルバキヤは獨立國となつた。ソコルは到る所に於て、平和と安寧の守護者としての活動をこの上もなほ熱誠をもつて従事したのである。

一九二〇年第七回記念祭が革命後の種々困難な事情にもかゝはらず開かれたが、非常な成功を勝ち得た。

戦後一九二〇年アントワープ、一九二四年パリ、一九二八年アムステルダム、一九二九年ストックホルムに參加し、一九二二年のリヂェビヤナ、一九二六年のリヨン、一九三〇年のリクサンブルグ等に於ける國際體育聯盟競技にも參加し、全部好成績を収めた。

最後に述べておきたいことは

一九二六年ブラーグに於ける第八回記念祭のことである。行進には三五五八〇人の男子一〇七七八人の婦人、一二七五一人の乙女、一三二五二人の若人が參加した。見せる爲に二五〇〇〇人の男子、四八〇〇人の古參團員、一四〇〇〇人の婦人、一四〇〇〇人の若者、一四〇〇〇人の乙女等が參加した。

一九二四年及び一九二八年にはそれ／＼ソコル聯盟の第七回第八回競技が開かれた。一九七〇年以後毎年男女ともにソコル選手權競技會が開かれてゐる。一九二一年一九二九年にはアメリカへ遠征した。

一九二五年五月には總裁マサツク出席の下にブラーグのチルス宮殿の落成式が行はれた。これがソコル團體の本部となり、體育指導者の永續的學校となつたのである。

春の雨

吉 田 尋 三 兵 野 武 代  
桃のおせつくすきました



(2) ソコールの概念

ソコール概念の基礎は身体的訓練のみならず全生活に於ける萬人の平等である。この平等の概念的標識は二人稱單數の汝と呼稱として朋友(兄弟姉妹)の言葉の使用である。汝といふ語は男同志女同志の際にのみ用ひられる。ソコール團員間の平等は權利及び義務の平等であるのみでない。それは敬意を拂ひ相互に顧慮し合ふ場合の平等である。

呼びかけの兄弟姉妹の形式は平等の單なる標識でなくもつと深遠な感情即ち同胞愛の表現でもある。同胞愛は特にソコールの同胞愛は單なる平等以上のものである。それはすべての兄弟姉妹が相互に同位であるのみならず、相互自由と獨立は放蕩や無秩序や混沌を意味するのではない。ソコール團員の自由は彼等がソコール原理によつて與へられるあらゆる義務を率先して履行するのである。自由意志をもつて義務を完全につくす所に彼等の眞の自由がある。

尙ほ、ソコール組織のもつと重要な標識をあげれば、そのすべての團員の中にあらはれる率先的規律的訓練である。ソコール組織のすべての團員は又身體的知的道德的完成に對する自覺的な努力によつて統一されてゐる。

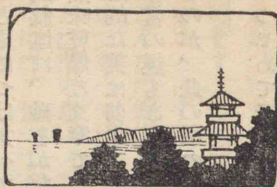
フランス革命の標語である平等自由同胞愛及び規律と道義はソコールの概念の第一主要なものである。

第二の要素は進歩的精神による自覺的なソコール作業によつて、全チエツコ國民の安寧に對する不斷の努力である。國家的安寧がソコール概念の基礎である。それ故にソコールの訓練は國民的精神によつて行はれる。國家生來の特徴を保持向上させるのが目的で相互扶助をも意味する。ソコールの同胞愛は平等の基本假定を包含してゐると共に出生財産教育から生ずる特權の自覺的拋棄をも含んでゐる。高位にゐる人々から平等と同胞愛を求めることを強調するばかりでなく、低位にゐる人々も平等と同胞愛を求める。さうして富有のものは貧民に、教育のあるものは教育のないものに、指導者は被指導者にいつも平等と同胞愛の精神をもつてゐる。

平等を要求する事ではなく、平等を與へること、それがソコールの同胞愛の意味である。ソコールの平等は自ら進んで低位の人々に對する自覺的な喜びと情愛をもつて與へることである。かくてソコールの同胞愛は單なる言葉ばかりでなく行爲となつて表はれる。若し吾々が或人に對して、援助の必要の際は喜んでこれに従事するのである。この平等と同胞愛から自由と獨立と人格が生れて來るのである。

ソコールの團員はあらゆる企を強制なしに自由意志で自ら率先して思ふまゝに實踐する。かういふ意味に於て國家に對する義務を遂行しつゝソコール組織は同時に、人間性の國家的理想即ちその目的とする、あらゆる文化國間の友義的關係に向つて努力するのである。

三溪園偶吟



縣立商工實習學校郷土會同人

大野 林 火

聽 秋 閣

冬日ざしこの障子にとどかすて  
あはれさや柱にうつる冬の空  
簷寂びて冬の日輪とほくせる  
ふるき世の寒さのこれる障子かな  
疊澄み舞ひ入りし葉の微妙なる  
落葉して落葉して昭和もとほき

三溪園拾得

末枯の陽よりも濃くてマツチの火  
常盤木の日をうしなへる寒さかな  
枯芝にゐて沖明り衰へず

小林 雪 鼎

窓をあくれば雪虫粉虫風に捲かれ  
窓の向き鴨ひそかに枝移る  
尾花踏みて風鐸の音聞きにけり

臨 春 閣

幽汀風葉散。  
遺閣綠苔深。  
椅柱對殘日。  
悠々萬古心。

武 内 廣 吉

遊 三 溪 園

山色蕭々野趣豊。  
聽秋閣上賞丹楓。  
琅々風鐸凌雲塔。  
無限詩思興不窮。

坪 井 良 之 助

觀 臨 春 閣

閣古伏見桃山城聚樂第之別殿也  
紗冬拖杖好林泉。  
舊閣移來古制傳。  
畫壁存神霜砌上。  
瑤臺薰影凍池前。  
豐公下釣樓猶在。  
寵嬖凝粧室亦全。  
日暮徘徊懷往事。  
琅琅風鐸響寒天。

座 間 美 津 治

しとくしとく 細い雨  
おうちの中ではつまらない  
外は、静かな 春の雨

吉 田 尋 三 森 弘 子

細い雨が降つたよ  
きぬ糸のやうな雨  
あまだれ落ちて

木の芽の上

細い雨が降つたよ  
こぬかのやうだよ  
しずくが落ちて

木の芽の上に

吉 田 尋 三 西 田 和 子

芽の出た、植木に  
春の雨

わたしの かさにも  
絲の雨

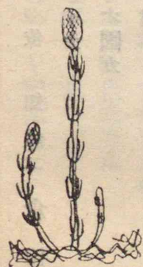
町に、春さめ  
きぬこまち

通りの、木にも  
春の雨

葉っぱに、さはつて  
落ちて行く

町の お店が  
あく頃も

ほそい 春さめ  
きぬこまち





# つゞり方指導の新機構 (つゞり)

まことのつゞり方教育實踐學 その一  
神奈川縣師範學校訓導 小 島 忠 治

## (2) 科學的敘述の系統的指導

イ、科學的敘述とは……  
こゝに云ふ科學的敘述とは、事物なり現象なりを敘述の對象として、科學的に考察吟味し研究調査して得た素材を、論理的な表現型式によつて書きあらはすことを云ふ。

随つてその敘述は、主として人間の理性に訴へるものであるが故に、丸山林平氏の説をかりて云へば第一に、敘述の順序や組立が人間の思考作用の自然性に適合するやうなものでなければならぬ、一口に云へば、論理的であり、冷静であるべきである。第二に、用語はあくまで正確妥當にして且平明であることを要する。随つて、美辭麗句の如きは、力めて避けなければならぬことは勿論、少しでも意義の曖昧な語句は極力排斥しなければならぬ。と更につけ加へて、——それだからといつて科學的敘述は、砂をかむやうな、何等のうるほひもない無味乾燥な文章でよいといふのではない、著しい修辭的な美は勿論さなければならぬが、そこには相當の趣もあり勢力もあり、そして氣持よく讀まれるのが、此の種の文の上乗なるものであらう、と。

つゞりて云へば藝術的表現が描寫的色彩を多分にもつてゐるのに對して、科學的敘述は頗る知的な説

明的報告的色彩をもつものであると云つてよいのではないかと思ふ。

ロ、なぜ科學的敘述の指導をするか……

今までのつゞり方は餘りに感覺におぼれすぎてゐた。つゞり方を兒童の文學とのみ考へすぎても異なる文學をいかにみ、いかに考へるかによつても異なるが、私はつゞり方を兒童の文學とは考へたくない一人である。もつと／＼廣い立場に立ちたい。堅苦しい定義をぬきにして、芦田先生などの云はれる如く自己をつゞること、子供達が子供達各自の生活を生々とした「まこと」のこゝろで表現することであると思维してゐる。よく／＼みるに子供達の生活は、文藝的な方面即ち藝術的な生活ばかりではない。思惟思考の生活、觀察調査實驗の生活もあり、知識を尊重する、眞理を渴仰するこゝろもあるのである。子供のかうした生活をも正しく發展させ素直に伸ばして行くことは、生活全面、全生命を指導せんとする「まこと」のつゞり方教育の重要な指導であり、兒童の生命の生長から考へても是非なさねばならぬ指導面である。

◇ 小學校令施行規則第三條に  
國語ハ普通ノ言語日常須知ノ文字文章ヲ知ラシメ

る。兒童は如何に題材をつかみ。如何に文表現していか、についてもしつかりみつめ、それに即して指導をすゝめねばならぬ。以下このことについて述べることにする。

どんなに價値ある表現をのぞんでも、生活内容が空虚であつては、つゞる題材がなくては何もつゞることは出来ない。これと反對に題材を内にもつてゐる時は、知つてゐることがらは、何かにつけて、發表表現したいものである。こゝに於いて思ふことは、指導の第一歩は何といつても題材をしつかり把握させることである。さてその題材はどこにあるかとたち入つて考へれば、云ふまでもなく日々の生活の中にあるのである。そこで生活の指導と云ふことが大切になつてくる。たしかに生活はつゞり方の母胎である、これを培はずしてはつゞり方は枯れてしまふのである。では如何に生活をみちびくか。——生活指導は偏してはならない、藝術科學道德經濟宗教あらゆる價値に向ひ、がつちりと眞理の上に立つてみちびかねばならないが、特に科學的敘述の指導にあつては、觀察實驗を重じて、積極的に調べる態度をつけることが大切である。調べるに云ふ行動を通して科學的な論理的な生活を培ひ、更に適當な參考文などによりて取材生活を刺戟し、取材散策なり話合ひによりて直接に題材のとり方を示してやることなど、ともすると概念的な指導になりがちなつゞり方指導をつとめて具體的な指導にすることが必要である。

次には觀察し實驗し調査して得たことからは、取材帳(文材帳)に記録させておき、この記録をもとにして表現の順序を立て事象を思ひうかべつゝ、文字記號を間違ひなく且かざらないびつたりした、ことば

を選んで、知的に論理的に正しく明晰に書きつゞらせ、語法文法表現法など機に應じて理解させ、つゞる活動をとほして表現力を錬磨して行くこと、即ちつゞる本質的な力を修めねることが大切である。

つゞり終つてからは、心を落着けて、題材を思ひ浮べながら靜かに讀返へして、ことばがびつたりしてゐるかどうか、書き足りないところはないか、よけいなことをくゞと書いてはゐないか、意味不明なところ、文脈の亂れてゐるところはないか、誤字脱字、句讀點、「」は落ちてはないか、讀みかへさせてはあらためさせ、場合によつては改作をさせてみることも必要なことである。

尙批評鑑賞文話……等により科學的敘述の取材に暗示を與へ、表現法を會得せしめることも忘れてはならない指導であつて、これらの指導は適當な機會をみては、適當な材料をもつて適宜指導をなすべきである。

## 二、指導の展開

(一)

尋一、二、あたりの兒童は、ものゝみかた、考へ方において、未だ知的な科學的な態度が現はれて來てゐないばかりでなく、取材においても表現に於いても、論理的な意識が明瞭に働いてきてゐないときであるからして、この頃の兒童に、大人の考へてゐるやうな論理的な説明的なつゞり方を要求することは、要求することが無理なことであつて、この頃の兒童については未分化なるまゝにおいて學習さすべきである。

先づはじめは話方のおけいこによつて、自分の思ふことは思ふ存分に口頭發表が出来る様にしておく

正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ、兼テ知徳ヲ啓發スルヲ以テ要旨トス。  
とある。

正確に思想を表彰するの能を養ふこと、これが教則に示されてゐるつゞり方教育の目的である、この目的からして是非ともなさねばならぬことは眞實正確な表現をめざすところの科學的敘述の指導である。

前述の如く兒童の生活實相から考察してもつゞり方教育の目的から考へても、科學的敘述の指導の大切なことは明かなことである。  
更に今の子供達が活躍する次の時代——おそらくは現代以上に科學的な時代にならうし、復雜化するであらうことを思ふとき、科學的敘述の指導の必要にしてかくべからざることを痛切に感ずるのである。

## ハ、如何に指導するか……

つゞり方指導はなんといつてもその對象である兒童を高くみすぎたり低くみすぎたりしないことである。即ち正しく兒童をみつめて兒童の表現能力に即して日々の指導を展開して行くことが肝要である。それには、「よくみて」「こまかにつゞつて」と云つた様にいつも同じ様な態度、いつも同じ様なことばをくりかへしてゐる様な概念的抽象的指導であつてはならない。よく兒童の文表現をみつめ、その長短をきはめ兒童の魂に喰入る印象的具體的指導でなければならぬ。

以上は指導の對象である兒童をよくみつめ、兒童に即して指導を展開していくことを述べたわけであるが、つゞり方指導はそれだけでは未だ不十分であると同時に、心にもないことはけつして言はせないこと。即ち嘘言を言はない「まこと」の生活態度を確立しておくことが大切である。更に一歩すゝめて、人によくわかる様にはつきり發表させる癖をつけていくことが肝要である。

尙話方の指導については、唯漫然と指導をしてゐたのではやはり効果が上らない、何といつてもそこにはしつかりした目的をもつてこないと、單なるおしやべりを作つてしまつてかへつてよくない。そこで是非ともなさねばならぬことは説明的話方の訓練である。私は尋一の二學期からはこんな話方指導をこゝろみしました。

——こん度は「自分のお家」について、皆によくわかる様にお話すること、とあらかじめ課題式に豫告しておきますと、次の話方の時間(話方の時間は一週に半時間乃至一時間月曜日の第一校時をあてました)には、どの子も、どの子も非常によく發表しました。——自分の家の場所を發表するもの、自分の家の家族を紹介するもの、中には自分の家を繪にかいてきて説明したものもあつた。この自分のお家についてのお話發表は、とくに一週にわたり、毎日第一校時を五分十分づつつかつて全兒童に發表させてみました。子供達自身非常に喜びまして、平常あまり發表しない子供まで元氣よく發表したのに驚きました。尙この續きは自分の所持、自分の玩具……等の説明をやらせたり、繪畫の説明から紙芝居にまで發展して非常に興味深かつた、發表力もぐんぐん伸びていつた様に感じました。

話方の指導と同時に、科學的な興味を培ひ、それとなく科學的態度を涵養してやることも忘れてはならぬことである。それには兒童と共に校外に出て甲



を追ったり草を摘んだりしながら、田の畔に、涼しい木蔭に、日當りのよい山ふところに話合ひを展開して、實物につき、實際に當つて、色々とお話したり、お話しさせることが肝要である。

こほり

尋二男 岩田昭治

こないだの夜、おちやわんに水を入れて外におきました。ねようと思つても、こほりのことばかりかんがへてゐるのでねられません。ぼくはこまつてしまひました。そこで二三四五とかぞへてゐますと、いつのまにかねてしまひました。

あしたの朝、三時におきてみると、おかあさんが、「もうちよつとねていらつしやい。」とおつしやつたので、ぼくは目をつぶつてゐました。四時におきて、着物を着て、外へ出て見ると、庭がこぼつてこつ／＼になつてゐました。

ぼくはさむくてたまりません。おちやわんを見ると水がこぼつてゐました。ぼくは喜んでよく見ると、なんだか細いすぢがはいつてゐました。それをたべると、おなかの中がづめたくなりました。

これなどは、こほりについて子供らしい實驗をやつり、子供らしい觀察をしてゐる、面白い科學的なつゞり方である。

(二)

尋三四にすゝむと、そろ／＼科學的方面にも眼が開いて来て、兒童の頭に論理的な構成がはじまり、科學的な考察もころみられる様になる。この頃より少しづつ、無理ならぬ様に科學的敘述の指導をすゝめることが大切である。

1、調べる生活の指導

科學的敘述の指導は、素材を得る上からいつてもその態度を作る上から云つても是非調べる生活を指

導せねばならぬ、尋一二の頃の遊びの生活や話合ひの生活の中に培はれた科學的興味は、調べる生活へと展開して、草花をとつて調べたり、おたまじやくしを飼つて繼續的に調べたり、學用品をしらべたり、自分の癖をしらべたり、學校學級の長所短所をしらべたり、その他色々なものを調べたり、調べる様になる、こゝをよくみちびいて、正しい調べ方を教へ、正確に記録することを授け、何時もつゞるべき題材を豊かに内に持つてゐる様にせねばならぬ。

2、論理的構成の指導

次には論理的な頭(思考)を作ることが大切である。如何によく調べても、調べたことについて、何故だらうか、どんな關係があるのであらうかと考へる様になりかねば、調べたことは何の役に立たない、であるからして、調べたことの次にはどうして調べたことについてよく思考する態度をつけねばならぬ。亦調べたこととして文表現をするに當つては、誰にもよくわかる論理的な表現順序について、あらかじめ計畫を立て、つゞらせるやうに指導せねばならぬ。

3、説明的敘述の指導

事物現象の説明的敘述は、尋一二頃の説明的話方の發展として、この頃特に四年あたりでみつちり修練せしむることが大切である。

方法としては、課題亦は一定の制限をもうけて、お話すると同じ様な態度で説明的に記述させること、更に進んでは積極的に自分自身で調査し實驗したことがらについて、説明文を製作させることなど大切なことである。尙説明的敘述の仕方について一言加へるならば、誰にもよくわかる様に論理的につゞること勿論大切なことではあるが、更に特質を印

象的にかくと云ふことも忘れてはならない一つの手法であると思ふ。

4、その他

科學的敘述の指導については、以上のほかに適宜科學的文章の鑑賞、科學的讀物の奨励……等つとめてなすべきである。たゞし科學的讀物については、少々注意しないと程度を越へたものをあざりがちであるからして一應指導者が目を通さないと危険である。

かひこ

尋四男 本多節代

私の家に五日のはじめにかひこがかへりました。始めは蟻よりも小さいかと思はれる程でまづくろい色をしてゐました。それをお母さんが毎日おんごを入れて、くはをやらせると、ずん／＼目に見えるやうに大きくなつてゆきます。五日目にはしよみんをみました。一日程じつとねておきると、かはぬぎます。それから二みん三みんをみました。蟻のやうであつたかひこも一ねむりごと目立つて大きくなり色もすつきりしてきました。くはをやると小さい頭をもたげてかはいらしい口でたべてゐます、まもなく四みん目もすぎました。もう體のまん中にたてのすぢがすきとほつて見えます。

或日のこと私はおかあさんに「かひこはすいぶん大きくなつたね。もう幾日すればあがるの……」と尋ねますと、お母さんは「まあ一週間もすれば上りますよ。これからはくはをどつさりたべますよ。」とおつしやいました。お母さんは夜もろく／＼ねられないで庭一ぱいにくはをむしりとられます。それでも二回やればすつかりたべてしまひます。六月五日のおひるごろそろ／＼あがりはじめました。それから六日にかけてあがつてしまひました。おかあさんはやれ／＼いそがしいもすんだ。とおつしやいました。今朝そつと見るともうかひこはい／＼まゆを作つてゐました。まだまだしらないで一生けんめいにいとをかけてゐるのもあります。私はこんな小さな虫にもたまはしひがあつて

めい／＼の生活にいそしんでゐるのだと思つて深く感心しました。これは農村兒童の作である。實にこまかく觀察してゐる。表現の上においてはこれといつてよいところはないが、論理的であつてよくわかるつゞり方である。

(三)

尋五六になると兒童の知能が著しく發達してくるので、科學的な考察もはじめられ、論理的な思考もなれてくるので、説明的な文にすばらしい展開をみせてくる。(然してこの頃より男女の性的差異がみえてくる、概して女兒は男兒に比して科學的敘述は不得手の様である。)

1、研究的志向の培ひ

この頃よりさかんに理科的、地理的、歴史的な方面に取材する様になり、必要である。それには廣い意味の課題によつて、取材に刺戟を興へること勿論大切なことではあるが、それ以前に研究の仕方、即ち觀察實驗調査吟味、或は書物によつて調べる、……等についての充分なる指導が必要である。この指導が行きとゞいてゐると、たんなる理屈ではなくして實踐を通して研究に興味を持つ様になる。

2、共同制作の指導

共同制作は低中學年ではむづかしいし、無理なことではあるが、尋六以上のものには面白いこゝろみであり必要なことである。

先づ一つの文を構成するに當つて、兒童はいくつかの研究班に分れて、問題事項(題目)について立案、調査、整理、記録……等豫め打合せて研究にう

つり、所定の文を作成すると云ふ段取りであつて、郷土研究には非常によい方法である、亦兒童劇などを作るときなどにもよいことである。

3、意見發表の指導

色々な事件や、時事問題について自分の意見を發表させる廣い意味の論文の指導もそろ／＼はじめることが大切である。

意見發表については、兒童各自の意見に創意をもたせること。更に自分の意見を裏づけ實證する引例

引證についての要領など指導を要する。

(四)

高等科になると、尋常五六年のときより一層科學的に論理的になつてくるので、題材を多方面に求め、説明文や論文の練習をさせることが大切である。特に共同制作による郷土研究、時事問題についての意見發表……等重じたい。更に日常の生活經驗の中から問題を捉へ、之について考へをまとめる感想文の様な方面の指導も面白いことである。終り

參 宮 讀 本

神宮神部署長序文 敬神教育會編  
宇治山田市市長題字 一  
三重縣學務部長推薦

寫真入四六版 八〇頁  
製本 頗美本  
定價 十錢

神宮の御事柄の大意に關し正しき理解と知識とを養ひ得べき簡明適切なる「よみもの」である。

「修養」と「案内」と「記念」と一冊三徳を兼ねたる理想的の「よみもの」である。「卒業記念、參宮記念」として生徒兒童にすゝむべき絶好の「記念品」でもある。

- ◎内容 序文、題詞、はしがき、神宮奉頌歌、皇大神宮御圖、豊受大神宮御圖、宇治山田市案内圖
- 一、神宮參拜 二、神宮の御鎮座 三、神宮の御造營 四、神宮の御祭典
- 五、神宮と皇室 六、神宮と國民 七、日の丸を仰ぐ

敬神教育會事務所

伊勢宇治山田市大字中之切町  
電話 九六〇番  
振替口座名古屋一二五七一番





代時長校部戶

# 回顧五十年 (其の九)

伊藤 覺 念

## 教育瑣談 (其二)

元公立中學校教諭  
師範學校教師

高橋 新太郎

### 修身教授

教師の人格的感化ぐるゐ、偉大なる力として、生徒のあたまたの中にくひ入るものは無い。淺薄で、體驗の無い、無人格の教師が、具案的方法的口先ばかりで、いかに修身を講じても効は無い。大哲カント言はく「直観なき概念は空虚なり」と、けだし體驗無き修身教授は効無きとの意だ。

教師は常に、聖賢の辿りし道程につきて、研究を怠らざるのみならず、常に自ら實踐躬行を積んで、體驗として蘊蓄し、教壇に於いて發表して見給へ。生徒に暗々裡に即ち無意識的に良い感化を及ぼす事必然である。而して修身教授ほど興味ある學科は無いとの批評を生徒からきくやうになる。

中等學校では、生徒のあたまたが小學校よりはやや、批判的になつてゐるから、修身の講義は殊に六づかしく、生徒から催眠術だと言はるゝやうでは失敗である。教育の秘訣は人格と人格の接觸する、刹那にある。教師は常にこれを念頭におかねば駄目だ。

### 缺食 兒

都會などの小學校では、貧民の缺食兒に對して、晝辨當を供給してゐるところがある。此の食物の施與は、只、同情といふ考のみによつて取扱ひ難い。下手に用ゐたならば、結果が毒藥となりはせぬかと

いふ心配がある。貧といふ病に對して、生かすか、殺すかの二岐である。施與すべき價値無きに、施與すれば、一紙半錢の微といへども、毒藥となり、劇藥となる。貧者の心を更に悪化せしめる。とにかく物質的救濟ぐるゐ、考へ物は無い。彼等をして、將來奮起せしめるやうにして、與へて初めて彼等を生かすことになる。とにかく、魂を救済することに、立脚して行かねば駄目だ。

### 俳人一茶

一茶は教育者では無いが、教育者は一茶の心境を味はねばならぬ。彼は自然と人生に徹底した考を有つてゐた。大詩人は皆然うであるが、彼は殊に貧家に生れたから、人間味としてのうるほひが、たつぷり有つた。で、僕は一茶が好きでならない。

ままつ子や涼み仕事に葉たたく夏の最中である。石もとろけるやうな眞晝時、後妻の生んだ子どもや、夫婦は開け放した座敷で、晝寝をして居るのに、獨り先妻の男の子だけが、日かげで薬打ちをしてゐる。其の音に無限の悲哀と、同情を感じたのだ。

我と來て遊べや親の無い雀

味つて見給へ。自然と涙がにじみ出づるを禁ずることができぬ。家のそばに架けておく稻穂についてゐる雀などは、竹の竿で追ひかけてやりたいのが普通の人情だのに、大愛に生きる彼は、ふところをひろげて誘ふのである。此の心を兒童教育に、あてはめて貰ひたい。多くの兒童の中には、家庭的に、めぐまれぬ、悲哀な環境におかれたものもあらう。さういふ兒童は、せめて學校だけでも、思ふ存分あそばせてやりたい。

勅令第二號

第六條 小學校本科正教員ノ月俸ハ左表金額ヲ下スコトヲ得ス

高等小學校	男	正教員	十圓	准教員	七圓
	女		八圓		五圓
尋常小學校	男		八圓		五圓
	女		六圓		四圓

第百四十九條

本科正教員ニシテ一級上俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ漸次百圓マデ増スコトヲ得

第百五十條

專科正教員ノ俸給ハ教授時數ニ應ジ減額シ得第百五十二條以下

教員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ減ズルヲ得ザルコト、教員死亡シタルトキハ月俸三箇月ヲ其ノ遺族ニ給スルコト、宿直賄料ヲ給スルコト、職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニハ療治料ヲ給スベキコト、土地ノ情況ニヨリ住宅料ヲ給スベキコト等

明治三十三年三月十六日 (法律)

市町村立小學校教育費國庫補助法公布

勅令

明治三十三年三月三十日

市町村立小學校教員加俸令發布

省令

明治四十年俸給表中削除改正

職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級
	十級	十一級	十二級	十三級	十四級	十五級	十六級	十七級	十八級
本科正教員(上)	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇
本科正教員(下)	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇
專科正教員(上)	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇
專科正教員(下)	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇
准教員(上)	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇	〇	〇
准教員(下)	四〇	三〇	二〇	一〇	〇	〇	〇	〇	〇

明治四十四年俸給額改正

職名

職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級
	十級	十一級	十二級	十三級	十四級	十五級	十六級	十七級	十八級
本科正教員(上)	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇
本科正教員(下)	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇
專科正教員(上)	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇
專科正教員(下)	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇
准教員(上)	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇	〇	〇
准教員(下)	四〇	三〇	二〇	一〇	〇	〇	〇	〇	〇

本科正教員ニシテ一級上俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ漸次百二十圓マデ増スコトヲ得

大正七年三月十九日改正

職名

職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級
	十級	十一級	十二級	十三級	十四級	十五級	十六級	十七級	十八級
本科(上)	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇
本科(下)	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇
專科(上)	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇
專科(下)	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇
准教員(上)	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇	〇	〇
准教員(下)	四〇	三〇	二〇	一〇	〇	〇	〇	〇	〇

大正九年八月二十日改正八月一日ニ遡リテ適要

職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級
	十級	十一級	十二級	十三級	十四級	十五級	十六級	十七級	十八級
本科正教員(上)	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇
本科正教員(下)	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇
專科正教員(上)	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇
專科正教員(下)	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇
准教員(上)	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇	〇	〇
准教員(下)	四〇	三〇	二〇	一〇	〇	〇	〇	〇	〇

昭和六年七月一日改正

二百四十圓マデ増スコトヲ得

昭和八年十一月一日改正

二百十五圓マデ増スコトヲ得

職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級
	十級	十一級	十二級	十三級	十四級	十五級	十六級	十七級	十八級
本科正教員(上)	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇
本科正教員(下)	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇
專科正教員(上)	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇
專科正教員(下)	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇
准教員(上)	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇	〇	〇
准教員(下)	四〇	三〇	二〇	一〇	〇	〇	〇	〇	〇

二百十五圓マデ増スコトヲ得

私が初等教育に従事しました明治十四年八月以降現時に至る迄の間に於きまする小學校教員の准官等級及び改正俸給令は大要以上に記しました如くに存じて居ります。

處で教員の物質的待遇と物價の高低即ち世の景氣不景氣等實社會の生活狀態中私の記憶に存じて居る事項を回顧して考察しますと明治三十七八年日露戰役當時は物價騰貴し玄米一俵八圓位の相場が永く續き同戰役中二ヶ年間は小學校教員の増俸は更に行はれませんでした、同三十九、四十年頃は生糸の價額暴

騰し一圓に付十三匁位となり同四十年後生糸の價低下と共に物價が下落しまして不景氣を招來しました。

同四十一年十月十三日戊申詔書を換發せられまして齊家治國の大綱を掲げ臣民をして其の歸嚮する所を知らしめ給ひましたことは誠に有り難く畏れ多いこととて御座ひます。

同四十年以後暫らくの間俸給生活者は世間から稍々美やまれました様でして大正元年の頃迄は玄米は矢張一俵八圓位で次第に下落して大正三年頃は三俵十圓位となりましたけれども同四、五年頃は一俵五、六圓、同六年には一俵十二、三圓と漸次に騰貴し同七年八月頃には一俵十八、九圓、同八年には一俵二十二圓に暴騰して遂に米騒動を惹起するに至つたのであります。

同七年頃から小學校教員には臨時手当として郡部に於ては俸給の多少に拘らず一人に付二圓位を給し横濱市に於ては俸給額の二割を給し同八年の秋には五割乃至八割を給せられました。

尙當時小學校教員にして子供五、六人有る者にて月給四十圓位の者は一月に米代ばかりで五十圓以上の支拂を要することとて生活非常時難の極度に達し實に慘憺たる生活狀態でありました。時に横濱市戸部町三丁目七十七番地米穀商諸井角太郎氏は困民の窮狀絶頂に達し見るに忍びぬ状態に奮起し白米の廉賣を思ひ立てたれて其の實行方法を考慮中の處同業者伊勢町二ノ一〇一番地高村清藏伊勢町四ノ一五〇番地飯島和市の兩氏之を傳へ聞き参加せられましたので茲に三名同心協力して協議を遂げ通常三等米の一般賣價一升五十錢以上の品を三十五錢にて一人に付三升宛賣ることとし三名にて二百俵を持寄ることにしました處此舉に賛成の有志者が出來まして約百圓



の寄附を得ましたので購買者一人に景品として「マツチ」一打入の箱一箇又は横一把握呈することにした。大正八年八月十四、十五の兩日私に職中の戸部小學校雨天體操場借用せられて一日に百俵づゝ二日間に二百俵を賣られましたが各々一日に百俵の豫定の處二日共僅か二時間にて賣り切れとなる盛況でありました。

右兩日中市役所網島財務課長は二人の吏員を派遣されまして助力せしめられ戸部警察署よりは警官數名を派出せられて雑踏を取締まられました。右舉を企てられました諸井角太郎氏之れに参加せられた高村清藏、飯島和市兩氏の篤志者三君は金額にすれば百俵に付六百圓即ち二百俵にて千二百圓を購買者も提供即施與せられたのでありまして實に困民救済の篤志者であります。

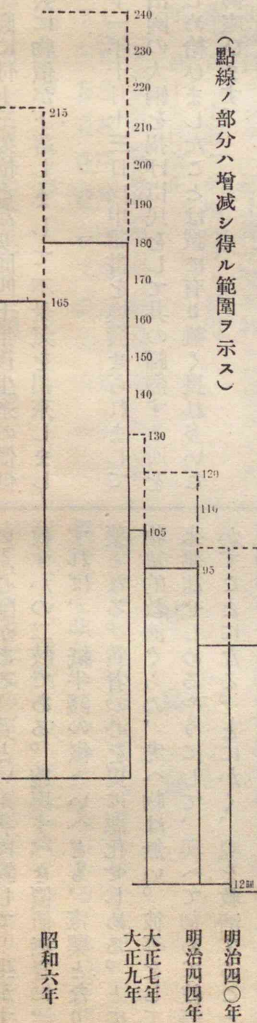
特に私は該當時戸部小學校長として白米廉賣の現場にたづさわつて居りました事として前記三氏の此義舉の現状が今尙眼に映じ深く心に存して感激感謝の念禁ずる能はぬので茲に特記して衷心より敬意と謝意を表する次第であります。

此の當時各新聞は横濱市に俠商現はると題して右舉に關し特筆大書して稱賛せられたので之れが動機となりまして全市に波及し市役所には細民救済の爲めの寄附金が二十五萬圓餘も集りまして貧困者救済費に充てられましたのであります。當時始めて米騒動の起りましたのは慥か富山縣で夫れから各地方に暴動が起つた様に覺えて居りますが本縣に於きましては縣市御當局を始め各方面の篤志者に依り救済事業が周到に行き届きましたので米騒動等の不祥事は餘り烈しくは起りませんでした。實に有り難く幸甚の極みでありました。

夫れで同九年には玄米一俵二十圓前後同十年には十七、八圓、同十一年には十四、五圓同十二年震災前には十三圓五十錢震災直後は交通機關杜絶の爲め震災地方は高價でありましたのに震災無き地方は他に米を移出する事が出来ぬので安價でして右兩地方に於きます米價の高低は比較になりませんでした。同十三年項は十五圓六十錢。同十四年十二月項は十四圓三十錢。昭和元年は同様でした。昭和二年六月項は十四圓九十錢、同三年三月項は十四圓三十錢同十二月項は十二圓三十六錢同四年四月項は十二圓三十八錢同十一月項は十一圓同五年二月項は十圓八十八錢同十月項は六圓八十八錢同年十月頃政府にて米價調節の規則を制定されて其調節を謀られる様になりましたので米價の大なる變動は少なくなりまして。

瘦蛙まけるな一茶此所にありやれ打つな蠅が手をすり足をすりやよ風這へ這へ春の行く方へ 蚕どもも夜長だらうぞ淋しがる 彼は蚕、虱、蠅のごとき害蟲に至る迄、親友として觀察してゐる。夏の夜長を淋しからうと、蚕に言ひかけた、一茶のごときは、愛の權化といはねばならぬ。教育者よ、運動場へ出て、樹の下にただづんでゐる、低能兒を、一茶のやうな心境をもつて導いて呉れ給へ。

明治十四年以後ノ小學校教員俸給額表



横濱市教育 研究會總會

二月十三日午後一時より開港記念横濱會館に於て横濱市教育研究會總會を開く。折柄の豪雨なりしも來會者頗る多く堂に滿つ。左の概要を記す。(文責記者)

1、兒童用讀方學習書の研究とこれによる繼續テスト 白幡校 尾和瀬保太郎 讀方の本質に立脚して各課の字、語句、文章につき兒童をして自發自學せしむるために考案せしもので、これを直ちに應用して短時間に然かも客觀的なるテストが行はれる。一には教師の教授の反省が行はれ、一には兒童各自が自己の學習の結果を自覺し得て、健全なる讀方教育が行はれる。

理科教育は只唯物的な工業的生產する機械とのみ考へてはならない。國民的の教養を高め、正しく事物を眺め正しく判斷し正しき愛する心を涵養しなければならぬ。この正しき自覺を以て進めば、一時の好調から悲境のドン底に陥り、反動から反動へと動く大波はない。

これによつて漢字教育の示唆をうけられる。 B、頻數(出現數)比較的多きものは 居(三二二) 大(二二四) 來(二五四) 見(二六二) 等で少きものは只一回の油、祝、頂、伺、益、選、多、などである。 これによつて取扱に考慮しなければならぬ。

架空性等の思想をうる故教育映畫によつてこれ等よりのがねばならない。それには相當映畫を十分に検討し改善を加へねばならない。 6、算術下巻指導の要諦 青木校 後藤勇吉 指導の主眼點を確立し教材の體系を考へ主力點を捉へ具體的取扱を必要とする。而してこれ等の計算には思考経路を指導する必要がある、これがためには教材の配列にも變更を要する。

Table with columns for '時代' (Era) and '科目' (Subjects). It lists various educational methods and subjects across different historical periods like Meiji, Taisho, and Showa.

Table with columns for '科目' (Subjects) and '計' (Count). It lists subjects like '新讀本' and '漢字' with their respective counts.

5、興行映畫の兒童性に及ぼす影響 宮谷校 淺野五三郎 兒童の興行映畫を見る回数調査すれば一月に一回以上なるものは四十八%、約半数に及ぶ。而して大人の見る態度と子供の見る態度とを比較し、内容たる西洋物と日本物、劍戟物と悲劇物などより受ける影響を比較すれば、短所として男女問題、虛榮心、虛無主義、頹廢性、不良性、粗暴性、

△講 演 氣象化學上の諸問題 中央氣象臺理學士 朝比奈貞一氏 氣象界には物理學と化學との關係が密接でその區別の不可能なる點もあり又兩者相關して起る現象も極めて多い。 空氣の成分 天候と炭酸ガスの含有量 降水の分析 空中塵



水質調査  
火山噴出物  
降水量と果物の味との關係  
食鹽の低温製法  
等の諸問題はそれでこれ等につき將來氣象學及地球物理學に關して化學の擔當すべき領域は決して少くないことを専門的に然かも具體的に講演された。

### 子安小學校に於ける 教育研究發表會

横濱市教育研究會の事業の一つである研究發表會は二月八日子安小學校を會場として行はれた。  
午前九時半より二時間全校四十一學級に互りて國語(綴方、書方)、理科、唱歌、體操、手工工業、英語の各科の實地授業、午後は引續きて口述發表會に移る。  
市教育課長の代理として川口視學の開會に始まり同校職員の左の發表あり。

- 一、研究經過の報告 馬場訓導
- 二、本校の讀方教育 大西訓導
- 三、本校理科教育の實際 清田訓導
- 四、本校の唱歌科 金子訓導
- 五、我が校の體育要項 清水訓導
- 六、創造的手工工業の全貌 萩原訓導
- 七、本校の英語教育 中森訓導

り、鈴木視學の閉會の辭にて終る。  
この日の來學するもの附近小學校長職員、遠く川崎市よりも來會者ありて數十名頗る盛會であつた。(馳川生)

### 體操科 研究發表會

昭和七年以來、毎年體操及讀方の公開的授業を續けて來た本校であるが、今回は國語偏重を防がうといふ考へ、各學年に涉る教科の重要性とを考へ算術を選定して、標題の兩科目について發表されたが、兩科共に熱意と眞誠味との溢れた、誠に立派な成績であつた實地授業は

- 尋一ノ一 丸山榮一 尋一ノ二 里見宗雄
- 尋二ノ一 猪俣久孝 尋二ノ二 鈴木みき
- 尋三ノ一 三川崎徳男 尋三ノ二 三枝中庸
- 尋四ノ一 三萩原モト 尋四ノ二 錦織四郎
- 尋五ノ一 中村茂磨 尋五ノ二 鎌田修二
- 尋六ノ一 鷲尾重雄 尋六ノ二 松沼 格
- 尋七ノ一 植松五作 尋七ノ二 下島 茂
- 尋八ノ一 秋山豊次 尋八ノ二 鈴木豊平
- 尋九ノ一 露木君藏 尋九ノ二 原 壽次
- 尋一〇ノ一 春山知道 尋一〇ノ二 安藤イト

### 綴方 研究發表會

二月十六日西戸部小學校に於ては多年の研究になる綴方、算術の盛んな發表會が行はれた。緊張しきつた児童等は午前九時の定刻以前に早や講堂に入り綴方の朗讀會が始められた。筆者も急いで講堂へ入つた一人であるがお客さんはまだ少かつた。而し四十頁の小冊子國語科綴方朗讀文集は目次通りすらすらと自由詩、さては俳句、短歌と何の遅

### 西戸部小學校

滞もなく行はれた事には先づ敬服した。朗讀振は何れ劣らぬ豪者揃で誠に見事であつた。また尋三以上のききての方も甚だ上手であつた。  
第二校時、第三校時は綴方と、算術の實地授業である。教室には何處も綴方文題一覽表、毎月の温度表などが掲げてあつて今日に至る経路の一部分がうかがはれて心持よく感じた。午後は二訓導の口述發表であつた。  
綴方指導上の要點 和泉訓導  
安藤訓導  
我が校の算術 安藤訓導  
非常に熱心にまた淳々と發表された。尙學校として特設學級の編成もあつて其の成績の見るべきものがあつた。どうか此上とも更に一層の努力が望ましいのである。  
協賛 三 (岡野校)

### 郷土讀本の 編纂成る

横須賀市教育會は、多年郷土誌の編纂を懸案としてゐたが、今茲二月十五日、本市に於ける市制施行三十周年に當り、書名を「我等の横須賀」と題して出版するの運びに至つた。其の目的とする所は、市内の児童生徒に

郷土の美を認識理解させると同時に、趣味に富む課外讀物を與へ、彼等に市民としての自覺を促すと共に、その趣味性の涵養と、讀書力の向上とに資せんが爲めである。併し一般市民、本市に在る陸海軍人、又横須賀遊覽客の一讀にも適してゐる。はじめ昭和十年九月編纂操作の議が起り、教育會幹事會に於て各課の原稿を市内十五の各小學校に配當して分擔起稿を請ひ、他に數名の委員が依頼されて、編纂の第一歩が踏出されたのである。

- 委員長 市學務課長 前田耕作
- 副委員長 市視學 吉原染太郎
- 委員 豊島校訓導 梶谷繁吉
- 委員 浦郷校訓導 布川隆之輔
- 委員 衣笠校訓導 藤本一郎

- 委員 諏訪校訓導 水野司郎
- 委員 柴田ゆき
- 委員 沙入校訓導 櫻内徳太郎
- 委員 小栗上野とウエルニ
- 委員 坂本校訓導 岩崎義朗
- 委員 坂本校訓導 齋藤幸作
- 委員 三浦校訓導 菅野光男
- 委員 澤山校訓導 菅野光男
- 委員 逸見校訓導 秋野 朗
- 委員 三 笠
- 委員 同 松本一夫
- 委員 長浦校訓導 鈴木秀秋
- 委員 船越校訓導 中澤正雄

### 横濱市・立野小學校

昭和七年以來、毎年體操及讀方の公開的授業を續けて來た本校であるが、今回は國語偏重を防がうといふ考へ、各學年に涉る教科の重要性とを考へ算術を選定して、標題の兩科目について發表されたが、兩科共に熱意と眞誠味との溢れた、誠に立派な成績であつた實地授業は

- 森 一義
- 下山 實
- 佐野 勇
- 同 人
- 布川隆之輔
- 小菅房次郎
- 新倉繁二
- 木ノ下孝治
- 藤本一郎
- 同 人
- 藤井由己
- 同 人
- 野村 順
- 河村正夫
- 角田錦彌
- 若原一夫
- 大坪爲吉
- 豊島校訓導 平井信雄
- 梶谷繁吉
- 同 人
- 藤原太次郎

### 縣指定國史科 研究授業

昭和十二年二月十七日(水曜日)  
午前九時より午後五時五十分迄  
指導日時  
指導者 教 材

- 一、指導學年 指導者 教 材
- 六女 森野訓導 大正天皇
- 六男 石渡訓導 明治天皇
- 五男 松本訓導 上杉謙信と武田信玄
- 六男 齋藤訓導 大正天皇
- 五男 伊藤訓導 毛利元就
- 五女 瀧田訓導 北條氏康

かで見合はされてゐるのは、聊か物足りない感じがするが兎にも角にも、徹頭徹尾會員の手によつて編纂せられ、軍都としての特色ある内容を包摂して刊行されたのである。  
斯うして本市の育英に寄與せんとする教育會の念願は正に實現され、今後本書の趣旨が達成されることを待つばかりである。(梶谷)

- 一、發 表
- 1、國史教育に對して 藤田校長
- 2、本校國史教授の方針 岩崎訓導
- 一、授業に對する批評
- 一、全般として準備、環境、整理可。
- 二、指導は熱心、説話亦巧者。
- 三、入り方は面白く工夫を要す。
- 挿繪より、或は旅行等の體驗、寫眞年表、郷土、兒童の興味等より。
- 四、具體的研究の片鱗が見え過ぎる。
- 五、知的に走らぬ様に。尋常科は興味が必要

要。  
六、歴史はまともが大切である、整理の時に批判の餘地を與へる。  
七、板書は多く書かれてもよいが、整理が必要。  
八、ノートはよく出来てゐるが、所々に誤字があるから檢閲を要す。  
九、問答は行きがけの駄賃式にやるべきものではない、批判の出来るものを問ひ綜合した答をさせるやうに。  
一〇、研究内容が取扱上知的に走る傾向が強い。  
一、指導事項  
質疑事項に對する指導  
一、郷土偉人三浦大介を國史教授に取扱ふとすれば如何に取扱ふべきか、その内容を時間を問ふ。  
△正課として取扱ふ時間はない。  
△指導は現地指導がよい。  
△承久の亂の説明の時に扱ふ。  
二、兒童の歴史的質問に對する國史上の應答法如何  
史學上よりの質問を國史教育上如何に説明するか  
例へば  
今の三種神器について、  
神代のごとき、  
後醍醐天皇の皇子、  
△三種の神器について平氏滅亡の結果の不明は神皇正統記の説が良い。  
△神代については本居宣長のやうに内容の事實ではなくて思想的なところをとる、そして神話についても、實證的に、何日、何處で、誰がしたと



いふ考へ方はせずに眞偽は不問。思想として扱ふこと。  
 宗教的な立場(山崎闇齋)で説くは不可、神代を人事におきかへて見る(新井白石)は不可、之は吾等の祖先が吾等の歴史なりと信じたものである、その立場でやる事。  
 △後醍醐天皇の皇子は御母が異られても皇子として一律に扱つて可差別的にしない。  
 三、尋常小學國史上巻百九頁「義時はたゞく上皇のおほせにそむいたので」といふこの史實如何、兒童がこの内容を問ふた場合に如何に答へるか。  
 △よく例にとられるのは、龜菊の領地の問題だが、それ以外に大きい問題は、上皇が幕府の存在を根本より無視してをられることで、これがあるが故に一寸したことも兩者の確執になる。例へば親王將軍擁立の問題、又幕府より院へ警固の武士としてだが、それが監視であるので、朝廷ではこれを無用としてゐる。  
 四、市國史科主任會で問題になつた質疑事項は  
 教科書に書いてある事が、今日の吾々の倫理觀とちがふ場合に、それをどう取扱ふか。例へば(かゝる場合は相當ある)  
 宇治川の先陣を争つた時の高綱の行爲、  
 保元の亂の時 父子互に敵味方に分れて戦つた事、  
 足利時代より戦國にかけての下剋上

早雲が小田原をとる時の「いつつて」といふ事等、  
 △宇治川の先陣は高綱がだましたとせず、景季に油斷があつたと景季に責任をもたせる  
 △保元の亂の父子相争ふ事は悲しむべき事である。兒童に反省させた  
 い。  
 △下剋上、當時に於ては此の實力主義が許されるとしても今日の如く秩序のたつた時は許されぬ事として説くこと、しかし實力主義でも義戦の時それを力説する。  
 △早雲の「いつはつて」は奸計で、いふ事ではない、しかし無勢のものが多勢を攻める戦略で、やむを得ぬ。スポーツではトリックはしてならぬが、これはスポーツではない。  
 五、教科書に次のやうに書いてある根據如何。  
 後水尾「ごみづのを」とよみがな「ごみ」をなく、  
 上巻一八〇頁「七年の間も富田の城を圍んで」といふこの年數、  
 承久「しようきう」「じようきう」としないで、  
 上巻五二頁には「唐」とあるに二五頁は「支那に」といふ表し方のしてあるのは、  
 △讀み方、歴史は慣用語で之が正しいとの證明はない、たゞかく讀むと定めたのだと思ふ。  
 △唐の方は唐が亡びても「から」とい

つてゐる、前のは唐でないといふ事の區分のため支那とした。  
 △富田城の包圍は七年。  
 六、聖德太子が天皇になられなかつた御事状は。  
 △聖德太子の即位せられなかつたのは表面上の責任者の地位にゐないで、自由の立場で活躍せらるゝが爲である、天皇は血みどろになつて改革する地位にはおかぬ。  
 七、最澄、空海、藤原鎌足、菅原道眞等の如く敬稱がついてないのはどういふわけか。  
 △歴史には敬稱を使はなくてよい習慣になつてゐる。  
 八、「仁德天皇は、...御なさけ深く」とか「醍醐(天皇は、...たつて御なさけ深く)」と特に書いた意味は何か。  
 △いたつての問題別に懸隔はない。  
 九、吾等は皇祖皇宗...徳ヲ樹ツルコト深厚ナリとの  
 「徳ヲ樹ツル」は徳光、遍照冥冥(吾々より見て)のうちに聞いてゐますが、教科書のやうな書き方はどんなものですか。  
 △内容辭句については文部省へ問合せ  
 てお答へする。  
 指導講話  
 一、教授方式についての新學説の長短  
 種々教育説があるけれどもこれを歴史的教養にとり入れてよいものは何か。  
 ○生活教育 I. Dewey の生活即教育との生活教育から、生活充實が教育であるとの立場

から實踐的教授法といはれる。  
 之からして社會生活が重視せられる。そして歴史の方面としては、經濟産業史の方面を重視してゐる、高等科ではこの部面がとり入れられてゐる。しかし日本は社會中心の發展ではない事に注意を要す、日本の國體にあるやうにすることが大切。  
 ○郷土教育  
 永い間ローカル・カラーをつけてゐたが、獨逸から起きた Heimat の影響を受けて更に色をつけ又つけねばならぬやうになつた、其の目的は、  
 教育の出発點として、又郷土に關聯比較して、準備點として郷土自身の發展としてとり入れてよいものである。  
 しかし單に懐古的保守退嬰的にならぬやう温故知新的にやる事。  
 ○民族國家教育  
 Kriek & Petersen 等の唱へたもので、民族生活をしなければならぬ。民族の國家的生活の立場から、凡ての學問は國家を忘れてはならぬといふ觀點に立つ、そこで國體國民性に立脚した教授が大切で、之恒常時課題であるがこれが忘れられやすい、そこで非常時課題が必要、小學校ではそれが取入れられる、自由より統制が必要、しかしスバルタ教育の如く極端にはしては不可、國體觀念にはしり過ぎてかへつて國を危くする、非常時に盡すのみが中心であつてはならぬ、文化の各方面に亘つて弾力性ある文化人の國家を築かねばならぬ。  
 ○實踐的歴史教育  
 實踐的教育學説に従つて、社會人、國家人として自己の行動をきめて如何なる點を行

動化するか、そして其の人の行動の内容へはいつてゆく、又行はしめるといふ立場をとつてゆく、歴史的人物の内面へ入るのである、政治家、軍人、外交家のみが國家に従ふ人であるのみならず、宗教家も藝術家も教育家も凡て、日本人としての信念をもつた實踐的批判をもつて行動を規定してゆく。  
 二、教材研究及び取扱に就て  
 1、私は教案の獨自性を叫ぶ、他を全寫の教案この學校には無かつたが二三それを指摘し得る學校があつた。僞稱するが如きは教師としての人格なし、よかれあしかれ出来得るだけやつて批判を仰ぐ態度でなくては不可、教育は人格の問題である。  
 2、教材の時間區分は質によらずに量によつて分ける事。  
 3、戦争等に就てはもつと原因結果をしつかりやつてまとめていくやうにしないと大局の目的が達せられぬ、子供は戦況に興味をもつが、それにひきまづられぬやうにせねばならぬ。  
 4、生れつき偉人といふことが本にあるがそこは注意して取扱ひ、發憤勉勵するやうに指導すること、又心から尊敬してやること、又動機を重くみてやる、赤穂義士のことでも動機はよいが現在法治国ではあの行爲はしてはならぬと説く。  
 5、教材研究は教師用書を読みぬく事である、それには註をよく讀む、しかしあの註をよむのがなか／＼の苦心である、幸に最

近會員組織でわけることの出来る一冊五〇錢の解説の書が出来たからそれを購めれば便である。  
 如何にして兒童に力をつけるか最後の問題である、それには本をよくしらべ又板書も工夫し、答へさせるにもまんべんなく答へさせるやうにする事。 以上  
 一般指導後別室ニ於テ教授者ニ對シ個別的指導  
 森野訓導ニ對シ  
 一、智的教材ナレド板書事項多シ...一段一段消シテ行クモ可ナリ  
 二、導入法ハ、ヤ、クハシ過ギタ  
 三、ノートニ處々誤字アリ。ノートヲ檢閲スルコト  
 四、全權人員ノ割當詳シ。簡單ニセヨ  
 五、ワシントン會議ノ言及セルハ可  
 六、戦争ノ禍ノ大ナリシコトヲ課ノ終リニ扱フコト  
 杉本訓導ニ對シ  
 一、環境整理結構  
 二、板書程度可  
 三、兒童ノ意見ニ對シテハ、開ク時言ハザル時等、ケリ目ヲツケヨ  
 四、歴史地理ノ立體的取扱トシテ烏瞰圖ノ作製ヨシ  
 五、年代表、人物年表等可  
 六、兩雄ノ人物論...天皇ノ所ニ出ル...  
 七、戦國時代ノ百年トイフ長サハ、教科書通リニテ差支ヘナシ  
 石渡訓導ニ對シ  
 一、四十六年間ノ史實ノ研究ニツキ復習取扱トシテ年表ヲ利用シテ問答法ヲ進ン

デ行ク方可ナラン  
 二、質問ノ時、手ノ舉ラヌノハ、問ノ一部ニ難解ノ所アルナリ。質問方法ヲ更ニ工夫スル要アリ  
 三、環境ノ取扱ハ可ナリ  
 四、紙芝居的ニ取扱フコトハ避ケルコト  
 明治天皇ノ御代ニ領土ノ擴張セル狀態ヲ説明スル方法トシテ新領土ヲ赤ク塗りテ白紙ニテオホヒ授業ニ際シテ、メクリ取ツタノヲ指メカ  
 齋藤訓導ニ對シ  
 一、三國干渉ノ件ハ高等科ニユツテ  
 二、國際關係(日英同盟)ハ、攻守同盟ナルコトヲ明ニスルコト  
 三、兒童ガ答ニ窮シタル場合ハ、更ニ導キ方ニ工夫ヲ要ス  
 四、戦争ノ方法ノ相違ニツイテ、話シタ方ガヨイ  
 五、戦争ハ全ク東洋ノ平和保全ノ爲ナルコトヲ力説セヨ  
 六、全課區分ハ五時間ノ方可ナラン(教授者ハ四時間配當)  
 最後ニ教科書卷末年表ニツイテ年表ハ繼ギ足シテ(長ク)總括取扱ノ時使用スルコト  
 瀧田訓導ニ對シ  
 一、氏康ノ少年時代ノ修養ヲ實踐的ニモツテイコト  
 二、戦國時代ノ出現セル原因ハ、足利幕府ノ無力ナルコト  
 三、戦國時代ハノノ城ヲレバ、其ノ地方ヲ取ツタコトニナルコトヲ、一層明ニ授ケルコト  
 四、氏康ノ民政(北條氏)ノ徹底セシコト

ヲ小田原ノ繁盛ヤ太閤ガ小田原征伐シタ時永ク包圍攻撃セバナラナカツタ事ト、結ビ一層力説セヨ  
 五、兒童ノ年表ヲノート代リニ使ツタノハ可、年表ヲ使ハバ板書ハ要セズ  
 伊藤訓導ニ對シ  
 一、教材ノ進度早ヤ過ギテキル  
 二、亂世鎮壓ノ中心ハト室ニナスコト  
 三、中國ト中央トノ關係ヲ考ヘテ、取扱フコト  
 四、ノートノ使用ナキ理由如何  
 五、三千ト三萬ノ兵デハ、智略ガ必要ダ。背水ノ陣ヲ取扱ツタノハ、結構  
 六、多クノ兒童ニ本ヲ讀マセルコト

平塚 珠算研究講習會

昭和十二年二月六、七(土、日)日の兩日に互り珠算研究會並講習會が平塚市平塚第三尋常小學校主催、平塚市教育會後援の下に同校に於て開催された。講師は名古屋新道尋常小學校・八重實業學校の柴田吳先生である。當日市よりは學務課長小泉健作殿出席せられ、その他市内各小學校校長及職員、縣下各小學校職員並に學校關係の參會者も多くその數二百五十餘名に及び、兩日共に非常な盛會であつた。  
 來會者は皆齊しくその實際授業に於ける兒童の活動振りに驚歎の目をみはつた。尙引續いて實際指導法と題して長時間に亘つて極めて適切な講習會が行はれた。



一、研究會

第一日 二月六日(土)

(一) 算術(珠算)科實地授業

- 第一時(午前10時—11時50分)
  - 算術 教材(小學珠算書乙種) 指導者 曾我俊一郎
  - 四女 基数をかけること 早川錦雄
  - 五男 帶小數にて割ること 宮崎清一
  - 六男 復習
  - 第二時(午前11時—11時50分)
    - 四男 基数にて割ること 中丸茂雄
    - 五女 三位の整数にて割ること 芦川八二郎
    - 六女 復習 飯尾福治

(二) 發表、批評、講評(午後1時—2時)

1 換 抄 比 企 校 長

- (1) 現代小學校算術教育の動向。
- (2) 本校算術教育組織の精神。
- (3) 算術科に於ける珠算の使命。
- (4) 本校算術教育の現在及將來。

2 發 表

本校の珠算教育に就いて 沖津勝三

- (1) 學年と教材配當並に指導目標
  - 四年：加減並乗除一位の徹底
  - 五年：乗除、傳票の徹底
  - 六年：復習並に應用
- (2) 乙種採用について
- (3) 本日の授業の一般について
- (4) 級の決定と進級審査につき

3 批 評

(1) 一般批評者 市内參會者代表 平塚第二小學校 齋藤訓導

4 講 評 柴田吳先生

- (1) 各學年共珠算を眞の珠算として取扱つてゐること
- (2) 基礎的指導の充分徹底してゐること
- (3) 本科に對する實力を全兒童の有すること
- (4) 何れの學年に於ても乗除の問題があり位取法に就き特に留意なされてゐること
- (5) 事實問題が多分に取入れてあること
- (6) 筆算、珠算、暗算を融合統一して一元的に統制されてゐること
- (7) 兒童の實力向上の手段としての級審査につき

二、講習會(六日、七日)

題目 珠算指導法に就いて

- (一) 珠算上達の要件
  - (1) 珠算科に於ける姿勢につき
  - 一の技能科なれば姿勢の極めて大切なること。
  - (2) 運指法につき
    - 一指説、二指説あれど二指説が理論上、心理上當然なること。
    - (3) 布敷法につき
      - 盤面の中史を使用することを本體とす、但し傳票に限り左端を使用すべきこと。
      - 尙定位點を正しく認識せしめ之をあくまで尊重すべきこと。
      - (4) 運珠法につき
        - 古來より云はるゝ所謂運珠三法の正しき指導により之を徹底せしめ機械的、反射的になされること。
        - 加法に於ては

(二) 加減の指導

- 加減は必ず併進すべきである。乗除も結局は加減の複雑化されたものであると見なすことが出来る。
- (1) 添入及排開
  - 説明するまでもないことではない。
  - (2) 上添下排及下上添排
    - 兒童には相當困難なものである。即ち筆算には全くないところの計算方法を用ひるものである。故に五の補數關係を十分練習する。
    - (3) 右排左進及左退右添
      - 和が十となるものを三段に分けて指導する。
      - 和が十一以上となるのは五珠を分解せずに凡て加數を分解して左進又は右添する。

(三) 傳 票

- 更に一層の技術を必要とする即ち兩手を同時に用ふるのである。
- 特に注意すべき點は次の二點である。
- (一) 左手にてめくり方の練習を十分練習すること、この際海綿、スポンジ、指サックを用ひる。
- (二) 數を一目で見る訓練をすることも忘れてはならない。
- (三) 乘法の指導
  - 甲種は破頭乘法にして乙種は留頭乘法である。
  - 珠算科独自の立場よりすれば甲種が可なるも小學校に於ては乙種で十分である。
  - 指導上特に注意すべき點は次の點である。
  - (1) 實は中央に二つ間を置いて法を左にする。

- (2) 積の置き方、一桁は次へ、二桁はそこから入れる。
- (3) 實先唱で指の移し方を正しく決して違へぬこと。
- (4) 尙途中の零も必ず掛けること。
- (5) 法、實の何れかに五又は零のある場合の位取に就いては特に念入に指導すべきこと。
- (6) 掛算は比較的容易の如く考へ勝であるから注意すること。

(四) 除法の指導

甲種乙種も結局は除法にある。  
甲種は歸除法で乙種は商除法である。  
珠算科独自の立場より考へるときは歸除法が絶対不可であるが、小學校では乘法と同様筆算と連絡を保ち併進するに商除法がよい。

商除法に於て特に注意すべき點は立商の位置である。即ち立商する位置は實より法が小か等しい時は飛んで、實より法が大たる時はすぐ前このことは十分知らせなければならぬ。

尙除法の檢算として乗法の練習をも加味する意味に於て大いに掛算をなすべきこと。除法が最も困難な教材なれば之れに指導に際して特に系統的になすべきである。

(五) 講師の實地授業

第二日目(七日)午前九時より講習會に先立つて柴田先生の實地授業があつた。先づ讀上算から始り看取算、乗算、除算、傳票に亘つて行はれたがその成績に對しては講師を始め一般來會も非常な讃辭を漏らされたと。兒童にとつては幸この上もないことである様に思はれた。

尙兒童は當校尋四以上の男女にして七級以上のもの七十餘名であつた。  
尙この際暗算、ちび寄特殊加減に就いても指導のあつたことを附加する。

(六) 概 括  
要するに兒童は白紙である。教師の細い注意と指導の系統とを明かにして實地の指導に當られますことを御願ひする次第であると結ばれた。

三 浦 三浦郡教育界情報

教學刷新の大旗を高掲げて馬を陣頭に進める概ある、本郡擔當田代視學の指導下に、三浦郡教育界は一年の日月が過ぎようとしてゐる、昨年十月鴨居小學校の衛生視察記事を最後に、久しく怠つてゐた通報の筆を續けて其の後の本郡教育状況の概要を記す。

○久里濱小學校國史研究會

昭和十一年十一月十七日、田代視學吉田指導員の指導下に、郡内及横須賀市小學校より出席三十五名、午前三校時に左の授業を行つた。

後醍醐天皇(尊五根本)楠木正成(同古賀)西南の役(尊六岩部)明治廿七八年戰役(同岩崎)鎌倉時代の文化(高一飯島)同(同志村)立憲政體の確立(高二高木)外交の進歩と社會の變遷(同榎本)

午後一時から、榎本研究主任の、要旨の再考と、該科教育方針の發表があり、續いて、小澤(葉山)中澤(浦賀)石坂(南下浦)福本(長

井)の各部會代表の批評に續いて、指導講評に入る、何はさて在任三年、指導三十餘校、足跡縣下に普き吉田先生の、原理と具體の融合同境から發する熱辯には、確かに信念が籠つ居た、從つて講話の中に折込んで行く質疑事項の解説も卒直明快に、問題の核心を衝いて、意義深き指導であつた。

田代視學は文部省及縣學務部の中樞に動き、ある教學刷新の眞剣味を説いて、切に教育實際家の猛省を促した。

○大津小學校學級經營に關する研究發表會

昭和十年年度の縣の教育振興施設の一として各郡市中一校を指定して、研究題目を與へ、これが研究を命じた。大津小學校に與へられた題目は學級經營。受命以來一年有半。郡内誰一人として知らぬものなき學級的校長嘉山氏の理論に、基礎づけられた實踐は、著々として其の實効を挙げ、昭和十一年十一月廿一日、其の研究を天下に發表するに至つた。其の以前本年度第一期に同校に開催された郡内校長會當日、面目を一新した其の學級の狀態に、驚歎した各校長によつて、各校職員は此の發表に多大の期待を持つて居たのであつた。筆者は當日病氣の爲め不幸其の實際を見ることが出来なかつたが、研究物を手にし又參觀者の感想を聞き、近來稀れる有益な研究會であつたことを感じた。

研究は、從來の學級經營案の、學校としての全般的計劃がないこと、學級個性を無視してゐること、實際的活用に適さないこと、其の場限りであること等の缺陷を指摘して、其の救済對策を樹て、學校としての全計劃の樹

○三浦郡教育會體育部の組織

郡内小學校の青年教育家の間に、地方青年體育向上の爲めに、何等かの施設をして其の理想實現を期したいといふ熾烈なる要望があつたが、其の純情が各小學校長を動かして創立されたのが、三浦郡教育會體育部である。

昭和十一年十二月十九日三崎小學校に於いて、田代視學を迎へて、其の發會式を舉行した。來會者百廿餘名、山崎葉山校長の開會の辭、吉米浦賀校長の經過報告、教育會長代理加渡田副會長の挨拶あり、満場の拍手裡に、福本三崎校長を部長として紹介し、部長の挨拶、後田代視學の訓示があり、尾形大浦校長の閉會の辭で式を終り、爾餘のプログラムたる全員のラジオ體操及綱引は、折からの雨天の爲め、校舎の廊下で決行する程の勇壯味を示した。猶委員として、

○武山小學校家事裁縫科研究會

昭和十一年十二月十日、田代縣視學島田指導員指導の下に、來會者四十名。午前中左記實地授業を行ふ。



尋六女 裁縫 紐飾り  
高二女 家事 きんとん 煮豆 梅花卵  
前後三時間青木ユキ訓導唯一人の舞臺であつた。武山は横須賀在の小さい純農村、一學級の児童も極めて少い。質素な如何にも純真な女児が、馴れないかくも多数の參觀者の眼を、其の手に其の背に感じつゝ、針を運び料理を作る姿は、何となくいたゞしく思はれた。

學校即家庭の理念に立脚して、家事科の重要性と全校一致の女子教育、家事科と各科の連絡、家事科の理論を學校生活に引戻しての實際化訓練の研究等、話術の巧妙な梅本校長の所見發表の後、教授者の自評があり、島田指導員の例の明快な指導講話の後、座談會の形式で、授業に對する質問批評意見交換、それに對する指導員の批判があり、質疑事項の解説を繰り込んで、縦横無盡の指導振り鮮やかに、時を經つのを忘れさせた。

唯一人で前後三時間手際よく授業を運んだ青木訓導の手腕と、家事裁縫兩科を通じて、児童の着實な働き振りは、校訓の「働け、氣がきけ、後始末」と合致して、一同ほゞ、まじしい氣持で眺められた。教授者のしみみりとした態度にも好感を持たれた。

○初聲小學校唱歌研究會

昭和十二年二月八日 田代視學月岡指導員指導の下に左の實地授業を行ふ。  
犬(尋一長) 冬の夜(尋三大塚) 橋中佐(尋四池谷) 鐘祭(尋五三浦) 鳴門(尋六木村)  
春の訪れ(高一堤) 明治神宮(高二並木)  
寒い日であつた。ラジオもレコードも普通の家庭では殆ど聞かぬことが出来ない本校児童は、

名曲鑑賞の機會にも恵まれない代り、卑俗低級な流行歌の感化からも救はれてゐると、大塚主任訓導の言葉も、何となく參觀者一同の胸を打つものがあつた。そして、「私達はあの子供達によく音楽を興へてやりたい」と聞かされて、もう一度午前中の寒い教室で、正しい口形をして歌つてゐた、質素な服装をしてゐた可愛らしい子供達の姿を思出したのであつた。

菅野(三崎) 藤原(鴨居) 永島(逗子) 富永(浦賀) 若命(大楠) 志村(久里濱) 照本(長井) 各訓導の擔當學年の批評の後校長代表としての梅本武山校長の、當日の教材を系統的に眺めて、そこに發展する美の諸相に關する興味深き感想的批評があつた。

何はともあれお互己の唱歌教授を内省し自校のそれを通過して感ずることは、該科の教育がまだ啓蒙期を出ない現状である。然し從來磨かれてゐた唱歌科の教育的價値や効果が今ははつきりと認識され、本科を重要視する時代が到来したことを感ずるも、我々の腕は一向に動いては呉れない。此の意味に於いて當日の指導會は、指導員の指揮下に全員が一ト二トと拍手を敷いて、リズムの眞義を實踐したり、指導員独自の簡便法によつて階級名音名を敷いたり、恰も講習會の觀を呈したことも意義深いことであつた。參觀學級の講習も一々懇切を極め、それから發展して指導員の體驗から生れ出た指導法の講義となり、夕開追れども何時果つべくもなかつた、殊に唱歌科に於ける歌詞の取扱方及讀譜指導法は從來の定型的取扱の、本質に外れしかも又非効果的である所以を指摘して、今後の進むべき道を明らかにせられたことは、啓蒙期にあつた。

鎌倉郡學校長 參宮團記

鎌倉郡神職會は國體觀念を明徴にし、皇道精神を振興する爲、之が具體的方策として、學校長參宮團を組織し、昨年二月第一回を行ひ本年二月上旬第二回を實施した。  
(一) 本年度の參加者左の如し  
國幣中社鶴岡八幡宮々々 中島正國  
深澤尋常高等小學校校長 青木由太郎  
中川尋常高等小學校校長 亞歷清八  
村上尋常高等小學校校長 三橋正太郎  
村岡尋常高等小學校校長 寺田時二  
瀬谷尋常高等小學校校長 岩本正義  
本郷尋常高等小學校校長 杉山清茂  
大正尋常高等小學校校長 立木茂  
豊田尋常高等小學校校長 飯島喜市  
官幣中社鎌倉宮主典 杉岡義鷹  
國幣中社鶴岡八幡宮主典 瀨尾武置  
縣社江の島神社々々 秋岡清次郎

(二) 參拜行程  
○第一日 二月四日參宮團各自氏宮參拜 代表者江の島神社 鶴岡八幡宮 鎌倉宮參拜 午後十一時二十五分大船驛發  
○第二日 二月五日午前九時九分山田驛着 宇治水月樓にて沐浴 外宮正式參拜 同域内別宮 風宮 土宮 多賀宮 巡拜 古殿地 九丈殿 五丈殿 忌大屋殿 拜觀 内宮正式參拜 同域内別宮 風日新宮 荒祭宮 巡拜 古殿池 御覽調合 忌火屋殿 祭館 拜觀 神樂奉納  
神宮司廳訪問説明拜聽 徵古館 農事館 神宮文庫 拜觀 月夜見宮 倭姫宮 月讀宮 月讀荒魂宮 伊佐奈岐宮 伊佐奈彌宮 巡拜  
○第三日 二月六日午前四時半起床 午前五時內宮參拜 二見ヶ浦の風光を眺め 興玉神社參拜 午前十時十四分松坂驛着 本居宣長大人舊宅の屋參觀説明を聞く 本居神社參拜 大軌鐵道にて櫻井驛下車 大神神社參拜 再び大軌鐵道にて八木驛乘 換櫻原宮神參拜 神武天皇御陵參拜 一路奈良に向ひ魚佐旅館宿泊  
○第四日 二月七日午前六時起床 春日神社及若宮參拜 午前十時四分 桃山驛着 御陵及乃木神社參拜 午後四時二十九分熱田驛着 熱田神宮正式參拜 午後十時三分名古屋發歸途  
○第五日 二月八日午前五時三十分大船驛着 各自氏神參拜 代表者 江の島神社 鶴岡八幡宮 鎌倉宮 參拜  
(三) 所 感  
今回の參宮旅行は頗る意義深く且嚴肅なる

ものであつた、出發の時から一般の旅行と異り、各自氏神に參拜し、郡内代表的神社に參拜する等、緊張した氣分が漲つてゐた此の氣分は行程中數多い參拜を重ねる毎にいよゝ／＼緊張し、いよゝ／＼眞剣に、平素亂れがちな吾々の心は崇高尊嚴なる神威に淨化せられ次第々々に森嚴清明に澄み、又華國の昔に導入せられ言ひ知れぬ懐かしさと限りなき有難さに感激したのであつた。  
吾々は日本精神を口にすること久しく書籍による研究も怠らなかつた、然しそれは只理論的研究であり觀念の域を脱しなかつた然るに今回大神鎮ります神都伊勢に感激の幾日を送り訪傍、桃山、熱田の靈地に巡歴して、深刻に我が國體本然の精神の姿を知り、日本民族の眞精神を體得して、確固不動の信念を得たのである、具體的なる幾多の教訓及感激の事實はこゝに割愛するも、總括して今回の參宮旅行により、日本教育者としての魂を得たことが何より嬉しかつた。

愛 甲 郡 學 校 衛生協會主催 學校衛生視察

一、場所 玉川小學校  
一、日時 二月八日 九時より  
一、行事  
1 授業 尋一 一組 算術  
尋一 二組 讀方

2 批評研究會  
イ、校舎の環境位置 北に山を背負い南向は小高き所校舎は東西に並列式自然に親しみ閑靜な地之に加ふるに學校園の施設をなす  
ロ、設備 湯呑所便所 手洗理髮所家事室排水堀其最もよし、救護室暗く唾壺少し  
ハ、教授衛生 通風採光よし授業中の姿勢よし  
ニ、衛生訓練 清掃作業訓練よし「マスク、障、輕裝」  
清掃にあたり主力點を指示せらるゝはよし  
各月衛生訓練配當表あることよし  
毎週土曜日を衛生日と定め検査の結果を記入するはよし  
身體検査を各學期毎に行ひその發達の狀態をグラフ用紙に示すはよし  
衛生監察簿を作り家庭に對して疾病異常兒童報告よし  
ホ、養護施設 虛弱兒童に對し肝油、ピオカルク服用等よし  
ヘ、體育施設 各月の體育會體力調査手

工會等よし  
イ、トラホーム患者取扱 各校にて點眼薬を校醫より購入し治療すること  
ロ、呼吸系統の疾病の恐れある兒童の取扱教師及び校醫は特に注意の事  
ハ、凍傷につきての手當及養護 (厚木校 石渡氏報)

第三學年研究會 主催 愛甲郡校長會  
昭和十二年一月二十一日青我小學校に於て尋三學年研究會開催せらる  
當日行事概要  
一、授業 讀方 小宮訓導 手工 同人  
二、批評 甲、讀方科  
1 複式學級の關係もあらうが語句の解決稍不足ではなかつたか。  
2 問答中心主義に流る。  
3 發問がむづかしくはなかつたか。  
4 ノートが自習的に取扱はれてゐた點可。  
5 板書事項が精練されて居た。  
乙、手工科  
1 用具がまち／＼であることを遺憾に思ふ。  
2 糊及び針について考慮されたし。  
3 色の配合についても同様。  
4 實物を示し學習と實際を結びつけられたし。  
5 兒童の製作振極めて熱心であつた。

六十周年記念寄附金 (第四回報告)  
昭和十二年三月十二日現在  
金 額 學 校 名  
七・五〇 横 濱 二 中  
六・〇〇 秦 野 中  
八・一〇 本 町 前  
八・七〇 西 崎 前  
六・〇〇 岩 崎 前  
八・一〇 神 奈 川 橋  
六・〇〇 神 奈 川 橋  
三浦郡 三 浦 郡 二  
足柄上郡 三 浦 郡 二  
足柄下郡 三 浦 郡 二  
二・七〇 兩 本 嶺  
計 七八・二二  
計 一、八五六・〇二  
教育塔建設資金寄附金 (第四回報告)  
(昭和十二年三月十二日現在)  
金 額 學 校 名  
二〇・五六 女 子 師 範  
累計 三、四四〇・四四



教員共済會だより

Table with columns for amount (金額), location (郡市), school (學校), and name (氏名). Lists names and amounts for various schools and districts.

Table with columns for amount (金額), location (郡市), school (學校), and name (氏名). Lists names and amounts for various schools and districts.

Table with columns for amount (金額), location (郡市), school (學校), and name (氏名). Lists names and amounts for various schools and districts.

日誌拔萃

一月七日 鎌倉師範にて開催中の養成講習終了、磯貝氏出席す、終了者七十二名

一月廿二日 鴨居小学校長加渡田武男、久里濱小学校長石井盛雄、本郷小学校長杉山清茂、瀬谷小学校長岩本正義、視學葛田公男の諸氏、茨城縣多賀郡日高小学校視察の爲出張

新尋常小學唱歌

新尋常小學唱歌伴奏及解説

新編 兒童唱歌

新編 兒童唱歌 伴奏 譜

新高等小學唱歌

新高等小學唱歌伴奏及解説

Complex block containing book titles, prices, and publisher information for 'New Elementary School Songs' and 'New Children's Songs'.

野(以上川崎)比企、高梨(以上平塚)及會田主事外附屬小學校各委員出席審議す



東京女子高等師範學校教授 成田順先生閱

# 裁縫學習帳

## 編纂方針

一、文部省裁縫新教授書に準據せり。一、教材は何れの地方にも使用し得るやう教授書中の教材全部を採擇し指導の取捨に委せたり。

一、裁方圖出來上り圖部分圖に兒童の興味を喚起し理解を助くるやうなるべく多く挿入せり。一、工夫創作せしむる爲問題を掲げ又教材毎に餘白を設けて活用の範圍も廣くせり。

## 裁縫學科

は特種の科目に付特別學習帳の必要あり。

### 〔價 定〕

尋常科第四學年用	金拾錢
同 第五學年用	金拾壹錢
同 第六學年用	金拾壹錢
高等科第一學年用	金拾六錢
同 第二學年用	金拾六錢

發行所 **文 信 堂 書 店**

東京市神田區猿樂町二ノ一二

振替名古屋二二三二七番

縣下一手特約店 橫濱市中區蓬萊町貳丁目六十五番地

販賣店 神奈川縣國定教科書特約販賣所

電話長者町③四四九七番

〔縣下各地教科書取次店〕

### 編輯後記

桃も櫻も爛漫の花の日を待機の姿勢で身構て居ります、學年末も目眩の間に迫り希望に羅きつゝも何とはなく心の忙しさを感ぜさせられます。

純真な兒童の作品何れをも捨て難く全部を登載しました、只童話の一部は紙面の都合で次號に廻します、各地よりの通信多數寄せられて感謝に堪へません。

新學年よりは一層清新の氣分を以て内容の刷新充實に勉めます、精々御寄稿願ひます。

### 廣告料金 (原稿切は毎月五日)

普通	一頁 拾圓	半頁 五圓
表紙	一頁 拾五圓	

連續掲載の場合は特別割引す

一冊	拾 錢	郵税五厘
半ヶ年	五十 錢	郵税共
一ヶ年	壹 圓	

昭和十二年三月二十日印刷  
昭和十二年三月二十日發行

神奈川縣教育會代表者 櫻 井 諭  
編輯人 櫻 井 諭  
印刷人 鈴木 清五  
印刷所 橫濱活版會  
發行所 神奈川縣教育會

昭和八年七月二十七日第三種郵便物認可  
昭和十二年三月二十日發行(毎月十五日發行) 第八十四號